

TOYOTA COROLLA 30 SEDAN

さんまる

取扱書 OWNERS MANUAL



オーナーのみなさまへ

トヨタ車をお買いあげいただき，ありがとうございました。
この取扱書には，車の正しい取り扱い方法と，簡単な点検・手入れについて説明してあります。
よくお読みいただいたうえ，いつまでもすぐれた機能が発揮できるよう，本書を十分に生かしてご使用ください。
また本書は，カローラ・セダン・4ドア・ハイデラックス車を基本に編集してあります。
それ以外の取り扱いについては，異なる点のみ説明してあります。
車両の仕様，その他の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。



〈カローラ・セダン・4ドア・ハイデラックス〉

CONTENTS
目次

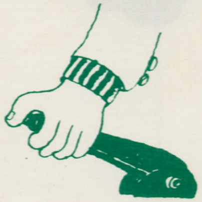
故障を防ぐために

●パーキング・ブレーキ・レバーは

走行する前に必ず確実にもとまでもどし，インジケーター・ランプが消灯するのを確めましょう。

（パーキング・ブレーキ・レバーの項目参照）

ひいたまま走行するとひきずりを起こしブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。



●バッテリーは

完全充電でも，エンジンを停止してランプ類を使用すると消耗がはげしいものです。

バッテリーがあがりエンジン始動ができなくなります。



●オイルの補給は

同品質か，それ以上のオイルを使用しましょう。

（トヨタ純正キャッスル製品の項目参照）



質の異なったオイルを補給すると性能が低下する恐れがあります。

●ブレーキ，クラッチ・フルードを補給するときは

同銘柄，同品質のフルードを必ず使いましょう。

なお，タンク内にゴミがはいらないように十分注意しましょう。

（トヨタ純正キャッスル製品の項目参照）

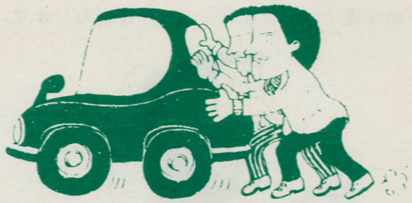


ゴミがはいるとブレーキが効かなくなり，クラッチは切れなくなることがあります。

万一のために

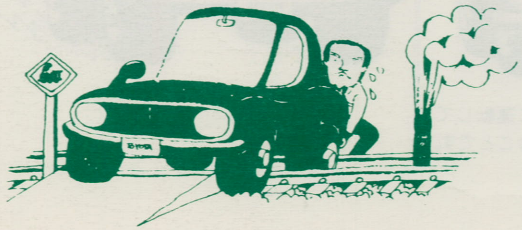
●エンストして始動できなくなったとき

1．付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



2．マニュアル・トランスミッション車の場合踏み切りなどで，急を用するときは，スタータで抜け出してください。ギヤをセカンドまたはサードに入れ，スタータをまわします。このときクラッチから足を離しておきます。また平担路の場合はトップにすると早く動かせます。

3．踏み切りなどで抜け出せない時，列車が来そうになったら保安炎筒で合図してください。



●高速走行中，パンクやバースト（タイヤの空気が急に抜けること）したとき

ハンドルをしっかりもって急ブレーキは踏まないようにしましょう。

急ブレーキを踏むとハンドルを強くとられ車が横転することがあります。

●故障したら

車を路肩に寄せ，ハザード・ウォーニング・ランプを点滅させるか，または，故障車とわかるように赤旗などを目につくように表示します。



●遠出して故障し，なおせないときは

整備手帳のサービス網をご覧になって，最寄りの販売店へ連絡しましょう。

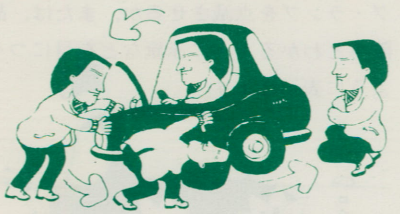
●排気ガスは

密閉した車庫内で長時間エンジンをかけたままにしておくと空気を汚し，ガス中毒を起こす危険があります。

●仕業点検は

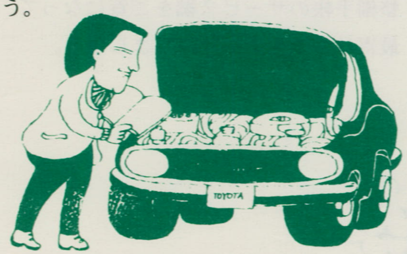
故障を未然に防ぐため，必ず行ないましょう。

（仕業点検の項目参照）



●定期点検は

整備手帳にもとずいて必ず行ないましょう。



車の性能を維持し安全に運転していただくためには大切なことです。

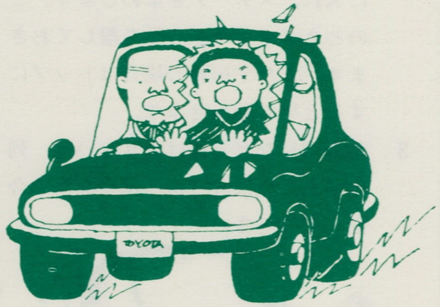
お子様を乗せるとき

●なるべくおとなと一緒にリヤ・シートにすわらせましょう。

助手席ではドライバーのじゃまになります。

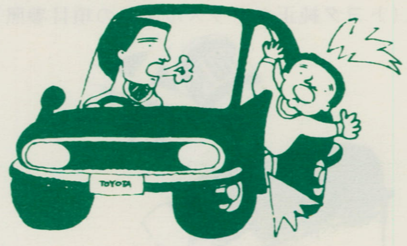


万一のとき放り出される心配があります。



●ドアのロックを確実にしましょう。

ロックをすれば，ドア・ハンドルをいじっても，ドアは開きません。



●必ずおとながドアの開閉をしましょう。



お子様が手をはさむと危険です。

●車から離れるときは，お子様を一緒に連れてゆきましょう。

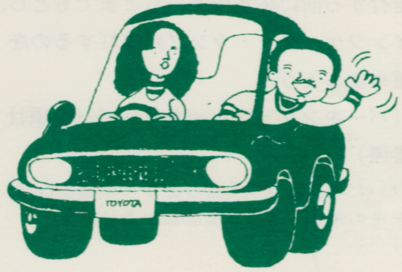
室内にお子様を残しておくと思いがけない事故が起きる場合があります。



●窓から顔や手などを出させないようにしましょう。

思いがけないけがをすることがあります。

対向車や，後続車に迷惑をかけ，またマナー違反です。



この取扱書には次の車両について説明してあります。

名称		車両型式		エンジン	ミッション
		2ドア	4ドア		
トヨタ カローラ	1200スタンダード	KE30−KR	KE30−KRF	3K−H	4速マニュアル・トランスミッション
〃	1200デラックス	KE30−KD	KE30−KDF	3K−H	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	KE30−CD	KE30−CDF	3K−H	2速オートマチック・トランスミッション
〃	1200ハイデラックス	KE30−KN	KE30−KNF	3K−H	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	KE30−MN	KE30−MNF	3K−H	5速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	KE30−CN	KE30−CNF	3K−H	2速オートマチック・トランスミッション
〃	1200SL	KE30−KSBR	KE30−KSFBR	3K−BR	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	KE30−KSB	KE30−KSFB	3K−B	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	KE30−MSBR	KE30−MSFBR	3K−BR	5速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	KE30−MSB	KE30−MSFB	3K−B	5速マニュアル・トランスミッション
〃	1400デラックス	TE30−KD	TE30−KDF	T	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE30−CD	TE30−CDF	T	2速オートマチック・トランスミッション
〃	〃	TE30−HD	TE30−HDF	T	3速オートマチック・トランスミッション
〃	1400ハイデラックス	TE30−KN	TE30−KNF	T	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE30−MN	TE30−MNF	T	5速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE30−CN	TE30−CNF	T	2速オートマチック・トランスミッション
〃	〃	TE30−HN	TE30−HNF	T	3速オートマチック・トランスミッション
〃	1400SL	TE30−KSBR	TE30−KSFBR	T−BR	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE30−KSB	TE30−KSFB	T−B	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE30−MSBR	TE30−MSFBR	T−BR	5速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE30−MSB	TE30−MSFB	T−B	5速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE30−HSBR	TE30−HSFBR	T−BR	3速オートマチック・トランスミッション
〃	〃	TE30−HSB	TE30−HSFB	T−B	3速オートマチック・トランスミッション
〃	1600ハイデラックス	TE31−KN	TE31−KNF	2T	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE31−MN	TE31−MNF	2T	5速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE31−HN	TE31−HNF	2T	3速オートマチック・トランスミッション
〃	1600GSL	TE31−KZBR	TE31−KZFBR	2T−BR	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE31−KZB	TE31−KZFB	2T−B	4速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE31−MZBR	TE31−MZFBR	2T−BR	5速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE31−MZB	TE31−MZFB	2T−B	5速マニュアル・トランスミッション
〃	〃	TE31−HZBR	TE31−HZFBR	2T−BR	3速オートマチック・トランスミッション
〃	〃	TE31−HZB	TE31−HZFB	2T−B	3速オートマチック・トランスミッション

安全運転のために

●正しいドライビング・ポジションは

急カーブや振動に対して身体がふらつかず，両手両足を敏速かつ，正確に動かせる姿勢です。

また前後の視界が十分確保でき，長距離運転にも疲れない姿勢であることも大切です。

（シートの調整の項目参照）



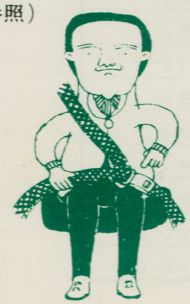
ヘッド・レストの間はにぎりこぶしの幅以上あけないようにしましょう。

●セーフティ・ベルトは

必ず装着して運転しましょう。

腰ベルトは腰骨の位置にぴったりと装着しましょう。

（セーフティ・ベルトを忘れずにの項目参照）



腹の位置にかけると万一のとき身体にくいこみ危険です。

●長い坂道を下る場合は

エンジン・ブレーキを活用しましょう。

（ブレーキ，クラッチの使い方の項目参照）



フート・ブレーキを踏み続けるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

●ブレーキ・ブースター付き車は

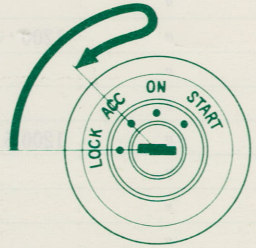
走行中にエンジンを停止させないでください。エンジンが停止するとブレーキ・ブースターが作用しないのでブレーキの効きが悪くなります。

●エンジンを停止して移動する場合は

（けん引される場合など）

エンジン・スイッチを一度ＯＮにしてからＡＣＣの位置にしましょう。

（エンジン・スイッチの項目参照）



走行中はキーを絶対にロックの位置にまわさないでください。危険です。

これだけはぜひ守りましょう

●タイヤは

1．走行前に必ず空気圧を点検しましょう。（タイヤの空気圧の項目参照）

2．摩耗して溝が浅くなったら取り替えましょう。（タイヤの溝の深さの項目参照）

走行中，パンク，バーストを起しやすくなり危険です。

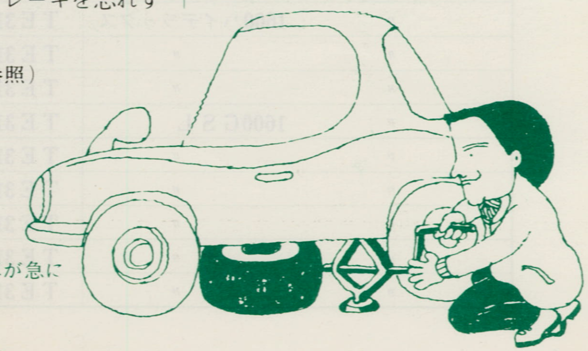


●ジャッキを使用する時は

所定の位置に確実にセットしましょう。

輪止め，パーキング・ブレーキを忘れずに。

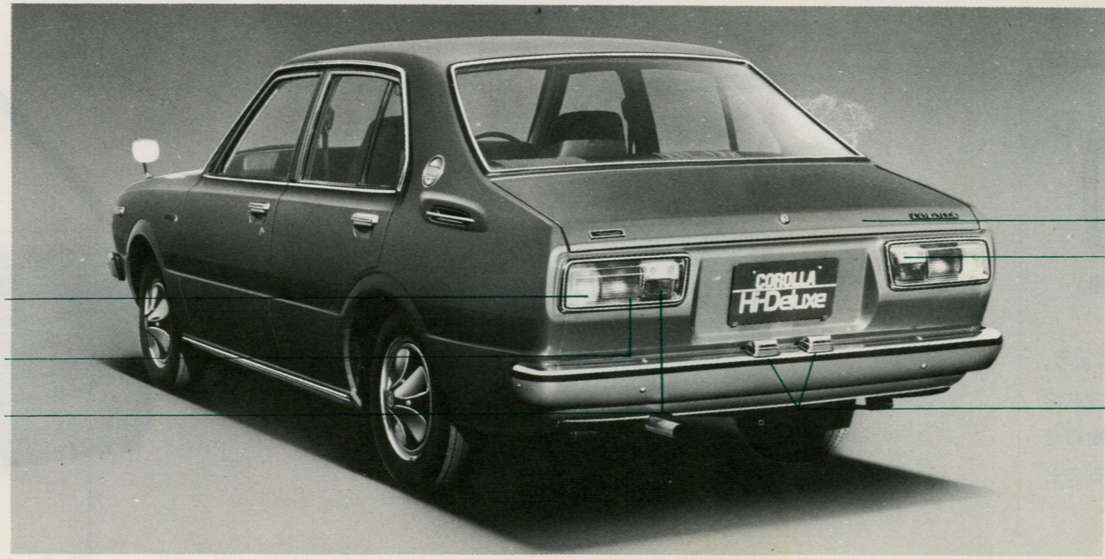
（パンクの処置の項目参照）

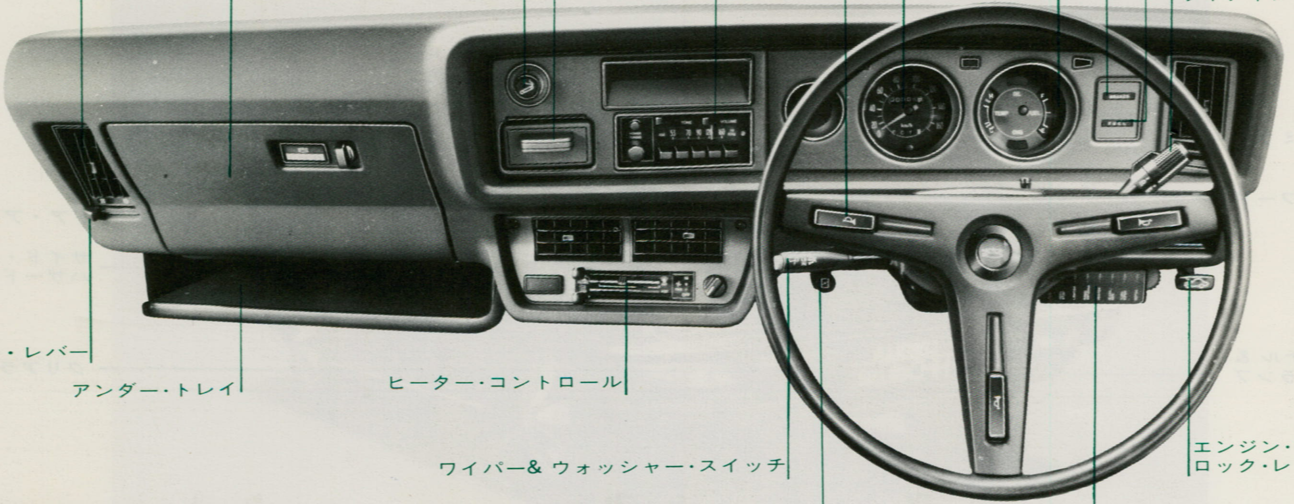


ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。

装備の知識について

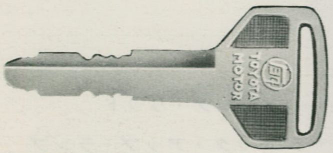

リヤ・ビュー・アウター・ミラー
エンジン・フード
フロント・ターン・シグナル＆
ハザード・ウォーニング・ランプ
ドア・アウトサイド・ハンドル
サイド・ターン・シグナル＆
ハザード・ウォーニング・ランプ
クリアランス＆パーキング・ランプ


ターンシグナル＆
ハザード・ウォーニング・ランプ
テール＆ストップ
＆パーキング・ランプ
反射器
トランク・リッド
バック・アップ・ランプ
ライセンス・プレート・ランプ



ご乗車の前に

■キーの確認をしましょう。

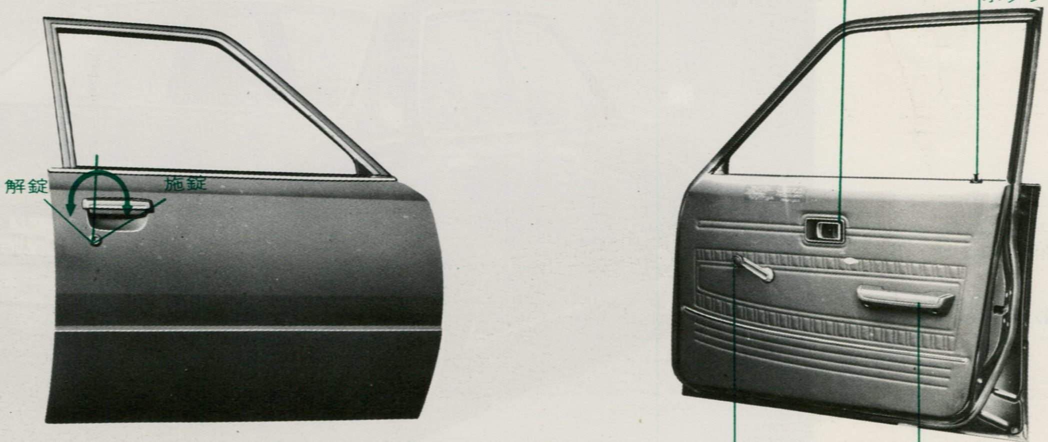


（すべてのキー・シリンダーに使用）

★ 注 意

キー・ナンバーをひかえておきましょう。万一，キーを紛失されたときはトヨタの販売店では，キー・ナンバーをお知らせいただければ，スペア・キーを作ることができます。

ドアについて



ドアを開けるときは

外側から……

ドア・アウトサイド・ハンドルを持ち上げます。

内側から……

ドア・インサイド・ハンドルを手前に引きます。

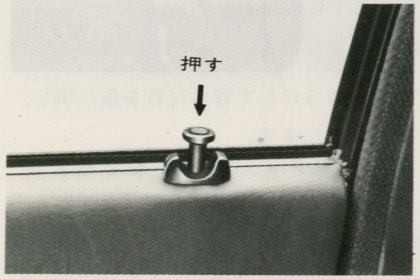
★ 注 意

必ず後方確認をしましょう。
いきなりあけると後続車がぶつかる恐れがあります。

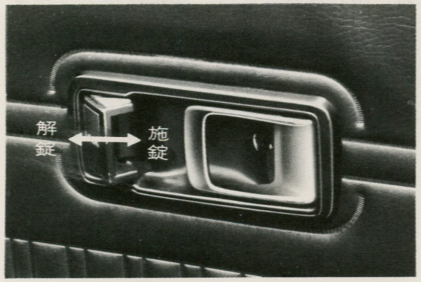
ドアをロックするときは

車内からロックするとき

4ドア……フロント，リヤ・ドアとも，ドア・ロック・ボタンを押えます。



2ドア……
ドア・ロック・レバーを押えます。



車外からキーを使用してロックするとき

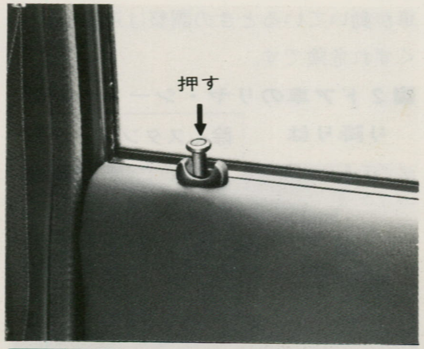
フロント……キーを写真の方向に回します。

車外からキーを使用しないでロックするとき

フロント……ドア・ロック・ボタンまたはドア・ロック・レバーを押しドア・アウトサイド・ハンドルを引きあげたままドアを閉めます。



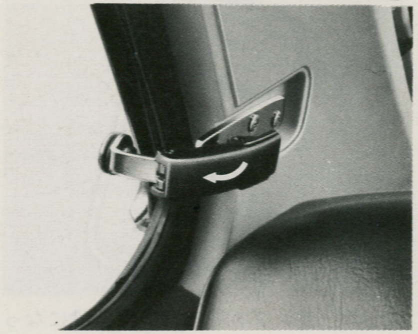
リヤ（4ドアのみ）……ロック・ボタンをおさえ，そのまましめます。



★ 注 意

キーを車内におきわすれないようにしましょう。

2ドア車のクォーター・ウィンドゥの開閉 除くスタンダード車

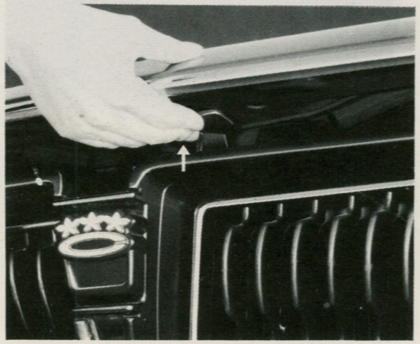


前ヒンジ後開きで，開いたときのステーが閉じたときのロック装置になっています。
開閉は，ステーのレバー先端をもって行ないます。

■エンジン・フードを開けるには



①計器盤右下のノブをひきます。ロックがはずれ，セーフティ・ラッチがかかった状態になります。



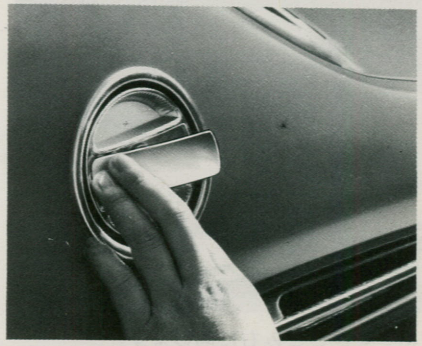
②エンジン・フードのすき間に手を入れセーフティ・ラッチをはずしエンジン・フードをいっぱい開けて，フード・ステーで，フードを固定します。

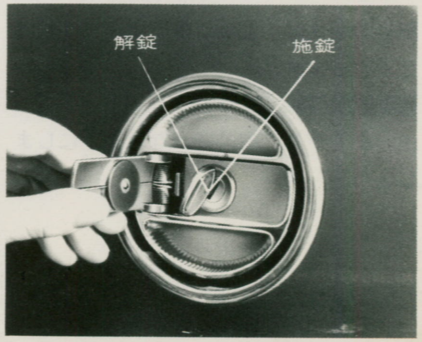
③閉じるときは，フード・ステーを下げエンジン・フードを静かにおろします。次ひフード先端を上から押しつけて完全にロックします。

★ 注 意

フードが半ロックの状態では走行しないでください。

■ガソリンを補給するには





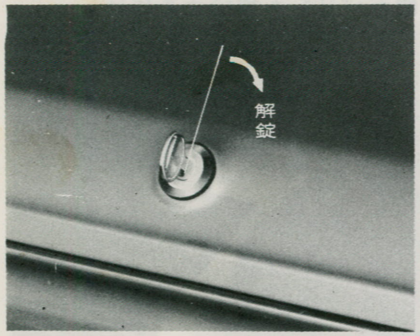
カバーを開き（写真参照）キーをさしこんで左にまわし，さらにキャップを左にまわしてはずします。

はめるときは，裏側のきりかきに合わせて右にまわし，キーをさしこみ旋錠します。

使用ガソリン

3K−H，3K−BR，T T−BR，2T 2T−BR	レギュラー
3K−B，T−B，2T−B	ハイオクタン

■トランクを開けるには



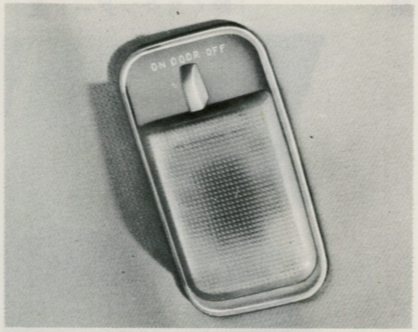
キーをさしこみ右に回します。

閉じるときは，上から手で押えつければロックします。

★ 注 意

キーをトランク内に置かないようにしましょう。

■ルーム・ランプとドアの関係は



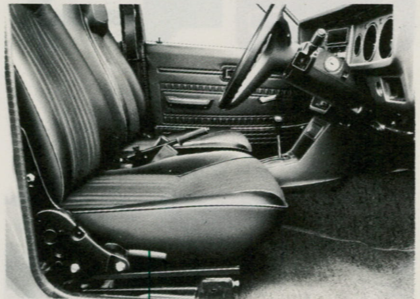
ルーム・ランプ・スイッチは3段になっています。

ON……ドアの開閉に関係なく点灯

DOOR……ドアを開いたときのみ点灯

OFF……ドアの開閉に関係なく消灯

シートについて



リクライニング・アジャスト・レバー

■フロント・シートの位置を調整しましょう

シートの位置調整は，正しいドライビング・ポジションで運転するために必要なことです。

ペダルを十分に踏むことができ，ゆとりのある位置に調整しましょう。

前後位置調整

シート前のシート・アジャスト・レバーを内側に押している間，前後に移動できます。

調整後は，シートがロックされたことを確認しましょう。

シート・リクライニング調整

スタンダードを除く全車標準
スタンダードオプション

シート横のリクライニング・アジャスト・レバーを引き上げて，背もたれの角度を調整します。

適切な位置にした後，レバーをはなすと固定されます。

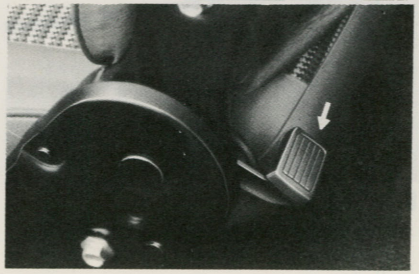
★ 注 意

シートの位置調整は，車を運転する前に行なってください。

車が動いているときの調整は運転姿勢がくずれ危険です。

■2ドア車のリヤ・シートへの乗り降りは

除くスタンダード車

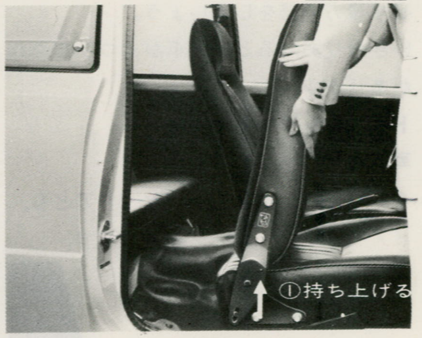


助手席のリクライニング・アジャスト・レバーを引き上げるかまたは後ろ下側のペダルを踏むと自動的にシートが倒れ，前へ移動します。

リヤ席の乗り降りに便利です。

シート・バックを起こせば，シートはロックされます。

スタンダード車



写真のようにして背もたれを前に倒し，乗り降りします。

■セーフティ・ベルトを忘れずに

運転するときは，必ずセフティ・ベルトをしましょう。

ベルトはいつも清潔にしておきましょう。

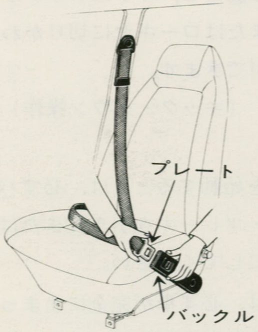
また破れがないか点検をしましょう。なお，汚れを落すには，中性洗剤でブラッシングして布でふきとってください。

フロントシート用は標準装備，リヤシート用はオプションです。

装着方法

1．シートを運転しやすい位置に調節します。

2．巻取装置からベルトを引き出しねじれていないことを確認してプレートをバックルにはめます。



★ 注 意

プレートがバックルにはまらない時はベルトが長くなるように調整します。

3．巻取装置からベルトをいっぱいに引き出し腰部のたるみがなくなるまで肩ベルト部を引き上げます。

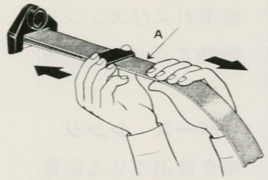


4．胸とベルト間ににぎりこぶしが入る位の余裕があるように肩ベルト部を調整します。

ベルトの調整

〈長くする場合〉

A部のベルトを水平方向に引っぱり長くします。



〈短かくする場合〉



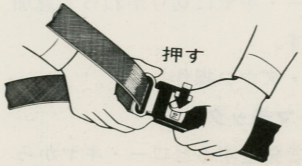
B部のベルトを引きさげベルトを短かくします。

★ 注 意

1．1本のベルトを2人で使用することは，やめてください。

2．子供に使用することは，さけてください。

取りはずし



ベルトを取りはずすときはバックルのプッシュ・ボタンを押すと自動的に格納されます。

■ミラーの調整をしましょう。

インナー・リヤ・ビュー・ミラー

アウター・リヤ・ビュー・ミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整しましょう。

防眩式インナー・リヤ・ビュー・ミラー

1600全車標準
その他オプション



夜間走行の場合，後続車のライトがミラーに写り，まぶしいときに使用します。

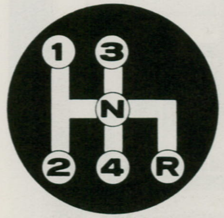
ミラーの下にあるレバーを手前にひくと後続車のライトの反射が弱くなり，後続車が確認しやすくなります。

防眩が必要なくなった時は，レバーを押してもとの位置にもどします。

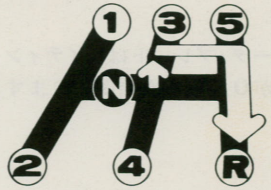
シフト・レバーの各レンジ

■マニュアル・トランスミッション

4速フロア・シフト



5速フロア・シフト



R（リバース）にシフトするときは，ニュートラルの位置でシフト・レバーを持ちあげて右側に引いてからシフトして下さい。

■オートマチック・トランスミッション

〔コントロール・レバーの操作〕



コントロール・レバー・ボタンを押して動かします。

またインジケータ・プレートはライティング・スイッチがONのとき照明されます。

〔各レンジの入れ方〕

➡ そのまま動かします。

⇨ コントロール・レバー・ボタンを押して動かします。

（2速オートマチック）



パーキング・レンジ
駐車およびエンジンを始動するときの位置

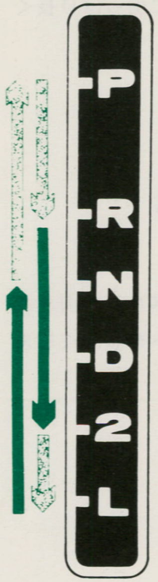
リバース・レンジ
車を後退させる位置

ニュートラル・レンジ
エンジンをかける位置

ドライブ・レンジ
通常の走行する位置

ロー・レンジ
強いエンジン・ブレーキが必要なときに使う位置

（3速オートマチック）



パーキング・レンジ
駐車およびエンジンを始動するときの位置

リバース・レンジ
車を後退させる位置

ニュートラル・レンジ
エンジンをかける位置

ドライブ・レンジ
通常の走行をする位置

セカンド・レンジ
エンジン・ブレーキが必要なときに使う位置

ロー・レンジ
強いエンジン・ブレーキが必要なときに使う位置

〔運転のしかた〕

（2速オートマチック）

○通常Ⓓで発進するとロー・ギヤから、スピードによりハイ・ギヤに自動的にかわります。

○マニュアル・トランスミッション車と同様に、Ⓛから発進し、Ⓓへと手動の操作でも運転できます。

○急坂路をくだるときは、Ⓛに入れて、エンジン・ブレーキをかけます。

○追い起しなどで急加速をしたいときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏み込むと、レバーはⒹでも、ギヤはハイ・ギヤからロー・ギヤに切りかわって急加速できます。

（キック・ダウン操作）

（3速オートマチック）

○通常はⒹで発進するとロー・ギヤからスピードによりセカンド・ギヤに、トップ・ギヤにと自動的にかわります。

○マニュアル・トランスミッション車と同様に、Ⓛから発進し、②➡Ⓓへと手動の操作でも運転できます。

○急坂路をくだるときは、スピードに応じてⓁまたは②に入れて、エンジン・ブレーキをかけます。

○追い越しなどで急加速をしたいときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏み込むと、レバーはⒹでも、ギヤはトップからセカンドまたはローギヤに切りかわって急加速ができます。

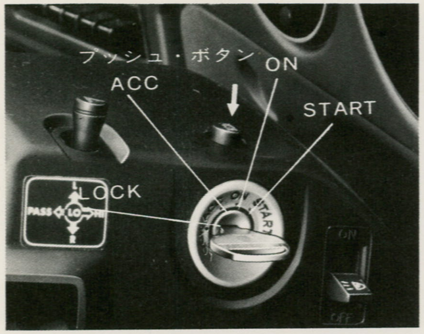
（キック・ダウン操作）

★ 注 意

1．エンジンを始動するときは、必ずパーキング・ブレーキを引きⓃまたはⓅレンジにしてください。
2．ⓅとⓇへは、必ず車が完全に止まってから、入れてください。
3．停車中、ⓃまたはⓅ以外ではエンジンを高回転しないでください。
4．アクセル・ペダルを踏み込んだままⓃレンジからⒹまたはⓇへ切り換えることは危険です。必ずペダルを離してからⒹまたはⓇへ切り換えてください。

スイッチ，メーターについて

■エンジン・スイッチ



LOCK キーを抜き差しできる位置。
キーを抜くとハンドルがロックされ盗難防止に役立ちます。

ACC エンジンを止めたまま，ラジオおよびカー・ステレオの聞ける位置。

ON エンジン回転中の位置

START エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的にONにもどります。

ロック
キーをACCからLOCKの位置にするときは，プッシュ・ボタンを押えて回します。

アン・ロック
キーがLOCKからACCにまわらないときは，ハンドルを軽く左右にまわしながらエンジン・キーをACCの方向にまわすとはずれます。

★ 注 意

1．エンジン停止時スイッチはLOCKまたはACCの位置にしておきましょう。
長時間停止するときはLOCKの位置にしてください。
ONの位置で放置するとバッテリーあがりの原因になります。
2．エンジンがかからないとき，無理にそのままSTARTの位置で長時間回さないでください。バッテリーがあがります。
3．エンジンを止めてラジオまたはカー・ステレオを長時間つけておくとバッテリーあがりの原因になります。
4．エンジンがかかっているときキーを，STARTの位置に回さないようにしましょう。
スターターが無理にかみあい破損します。
5．走行中はキーを絶対にLOCKの位置まで回さないでください。
危険です。

■チョーク

オートマチック・チョーク車は寒冷時，エンジンを始動するときに，自動的にチョークがはたらいて，始動を容易にするようになっています。
オートマチック・チョーク付車以外はチョーク・ボタンで操作します。

オートマチック・チョーク

①エンジンを始動する前にアクセル・ペダルを次のように踏み込みます。

外 気 温	踏 む 回 数
＋5℃以上	軽く1回
＋5℃～－10℃	いっぱい1～2回
－10℃以下	いっぱい2～3回

②アクセル・ペダルから足を離しエンジンを始動します。
③しばらく暖機運転をします。
（オートマチック・チョークが働いている間は，アイドリング回転数は通常より高くなっているのでアクセル・ペダルを踏んでいる必要はありません。）
④エンジンが暖まってから再びアクセル・ペダルを踏み込んでから離します。
（アクセル・ペダルを踏み込むと，チョークがもどりアイドリング回転になります。）

チョーク・ボタン

T，2T型エンジンを除く



エンジンが冷えているときには

①チョーク・ボタンをいっぱいひきます。
②アクセル・ペダルを踏み込まないでエンジンを始動します。
（始動直後エンジンの回転が不円滑な場合は，円滑になるまで，ペダルを踏み込んでください。）
③始動後チョーク・ボタンをノッチ（カチッと音がする位置）のところまで戻し，十分暖機運転をします。
④エンジンが暖たまるにしたがって，チョーク・ボタンを徐々にもとにもどします。

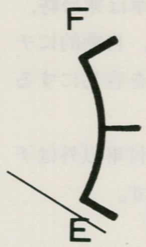
★ 注 意

エンジンが暖まったらチョーク・ボタンは必ずもどしてください。
チョーク・ボタンを引いたままにしておくと，エンジンが不調になったり，燃料消費が多くなります。

■ハイビーム·インジケーター·ランプ
ヘッドランプがハイビームのとき，ハイビーム・インジケーター・ランプが点灯(青色)します。

■ターン・シグナル・インジケーター・ランプ
右折または左折のとき，それぞれのターン・シグナル・インジケーター・ランプが点灯(緑色)します。

■フューエル・ゲージ〈燃料計〉



エンジン・スイッチがONのときにフューエル・タンク内の燃料の量を示します。エンジン・スイッチがON以外では，指針はEより下の位置にあります。

■フュエル·ウォーニング·ランプ〈燃料残量警告灯〉

ハイデラックス,SL,GSL

エンジン・スイッチがONのときフューエル・タンク内の残量が5 ℓ以下になると点灯し警告します。

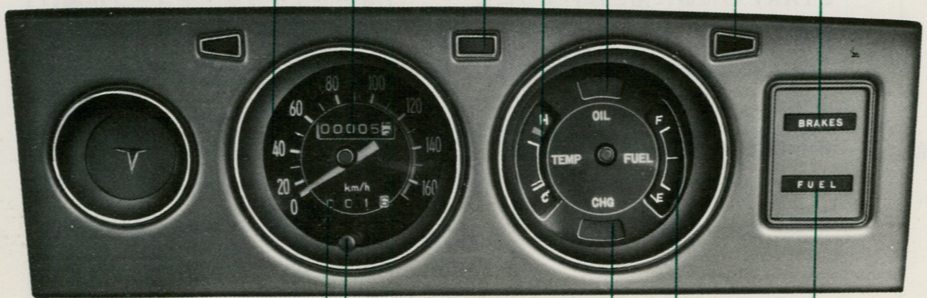
■ヒート・ゲージ〈水温計〉
エンジン・スイッチがONのときに冷却水温を示します。
エンジン・スイッチがON以外では，指針はCより下の位置にあります。
指針がレッド・ゾーンを示すときは，冷却水の有無，漏れ，およびファン・ベルトのゆるみ等について点検してください。

■スピード・メーター
指針は車の走っているスピードを示し約100km/h以上になるとチャイムが鳴り警告します。チャイムが鳴っているとき指針が振れることがありますが異常ではありません。

■オド・メーター
走行した総距離をkmの単位で表わします，白地に黒文字は，100mの単位です。

2眼メーター

除くSL，GSL



■トリップ・メーター

除くスタンダード

オド・メーターと共に走行した距離を表示します。
ある区間または，期間に走行する距離を知りたいとき0にもどして使用します。0にもどすときは，トリップ・メーター・ノブを押せば0にもどります。

■パーキング・ブレーキ・インジケーター・ランプ

エンジン・スイッチがONのときパーキング・ブレーキ・レバーを引くと点灯（赤色）します。

■チャージ・ウォーニング・ランプ〈充電警告灯〉

エンジン回転中，充電系統が異常のときに点灯し（赤色）警告します。
ただし，エンジン停止中にエンジン・スイッチをONにすると点灯し，始動すると消灯します。

■オイル・プレッシャー・ウォーニング・ランプ〈油圧警告灯〉

エンジン回転中，潤滑系統が異常の時に点灯（赤色）し警告します。点灯したままのときはオイル量を調べてください。
ただし，エンジン停止中にエンジン・スイッチをONにすると点灯し，始動すると消灯します。

■タコ・メーター SL, GSLのみ

エンジン回転数を示します。
赤色はレッド・ゾーンといい指針がレッド・ゾーンにあるときは，エンジンがオーバーランをしていることを示します。
指針がレッド・ゾーンにはいらないようにしてください。

レッド・ゾーン

1200（3K−B，3K−BR）…6700回転
1400（T−B，T−BR）………6300回転
1600（2T，2T−B，2T−BR）……6300回転

■ライト消し忘れ警告灯

SL，GSL標準
ハイデラックスオプション

ライティング・スイッチがONのままエンジンを停止したときに点灯（赤色）しライトの消し忘れを警告します。

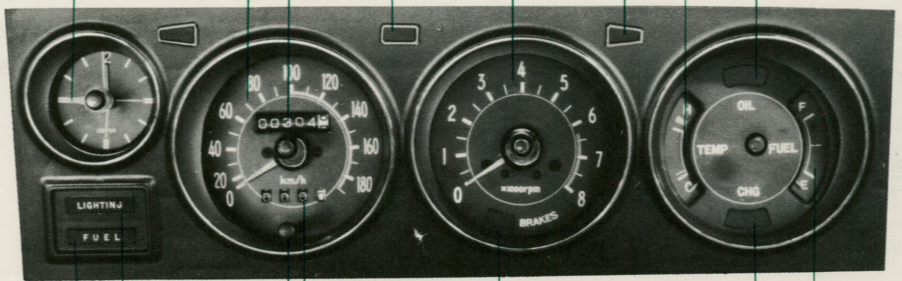
■時計

1600ハイデラックス，SL，GSL標準
スタンダード，デラックス，1200・1400ハイデラックスオプション

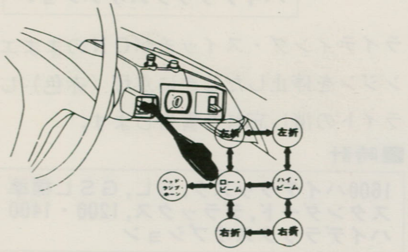
時刻調整は，つまみをおさえたまままわして行ないます。

3眼メーター

SL, GSL



■ターン・シグナル&ライティング・スイッチ



ターン・シグナル・スイッチとして

右左折のとき上図のように操作します。操作した順のターン・シグナル・ランプが点滅するとともにターン・シグナル・インジケーター・ランプが点滅します。ハンドルをもとにもどすとレバーは自動的にもどります。

★ 注 意

ハンドル操作が少ないときはスイッチが自動的にもどらない場合があります。このときは手でもどしてください。

ヘッド・ランプ・ホーン・スイッチとして

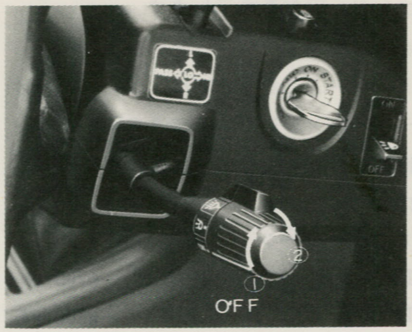
レバーをロー・ビームの位置から手前に引いている間ヘッド・ランプのハイ・ビームが点灯します。高速道路で先行車を追い越すときなどの合図として使います。

ディマー・スイッチとして

ハイ・ビームとロー・ビームの切り換えをします。

夜間先行車や対向車のあるときはロー・ビームにしてください。

ライティング・スイッチとして

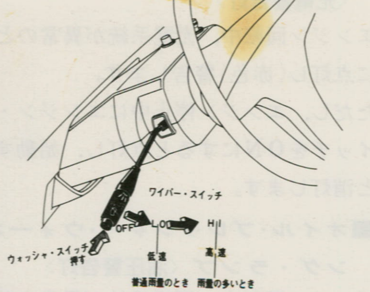


ライティング・スイッチはターン・シグナル・スイッチと併用になっており，エンジン・スイッチに関係なくランプがつきます。

①および②の位置でそれぞれ次の○印のランプが点灯します。

灯　火　名	①	②
ヘッド・ランプ		○
クリアランス・ランプ(車幅灯)	○	○
テール・ランプ	○	○
ライセンス・プレート・ランプ	○	○
メーター・パイロット・ランプ	○	○
ヒーター照明ランプ	○	○
ラジオ，照明ランプ	○	○

■ワイパー&ウオッシャー・スイッチ



エンジン・スイッチがＯＮのときに使えます。

ワイパー・スイッチとして

普通雨量のときは，ＬＯに，雨量の多いときは，ＨＩにスイッチを下に操作します。

★ 注 意

ウインドガラスが汚れたまま使用するとガラスに傷がつくことがあります。

ウオッシャー・スイッチとして

スイッチを押すと，ウオッシャー液を噴射します。

ＧＳＬ車のウインドゥ・ウォッシャーはワイパーと連動式になっています。スイッチをおす（３秒以内）とウォッシャー液が噴射され，同時にワイパーが数回作動し止まります。

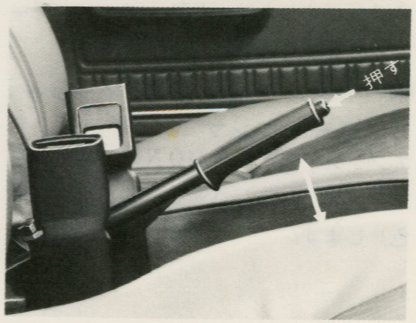
ウインドゥ・ガラスがよごれているときに使用します。

★ 注 意

ウインドゥ・ウオッシャー液がカラのときはスイッチを押さないで下さい。

まわすとポンプをいためる恐れがあります。

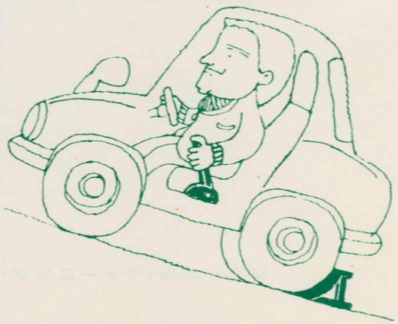
■パーキング・ブレーキ・レバー



駐車時，いっぱい引いて使用します。もどす時は，レバーを軽く引きあげながらレバー先端のノブを押し，そのまま下にいっぱいおろします。

坂道での駐車は

図のようにパーキング・ブレーキを引いた上，ギヤをローまたはリバースに入れ，さらに輪止めをすると安全です。



■ハザード·ウォーニング·スイッチ



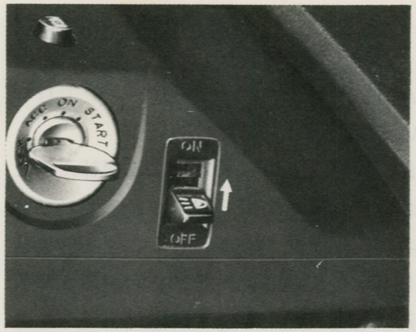
ハザード・ウォーニング・スイッチは，エンジン·スイッチの上についています。故障して，路上駐車のとき他車の追突防止のため，使用します。スイッチを引くと，前後左右のターン·シグナル·ランプとともに，ターン・シグナル・インジケーター・ランプが点滅し，駐車していることを知らせます。

★ 注 意

ハザード・ウォーニング・スイッチは非常の場合以外は使わないようにしましょう。

走行中，トンネル内などで使用すると他車の誤解をまねき危険です。

■パーキング・スイッチ

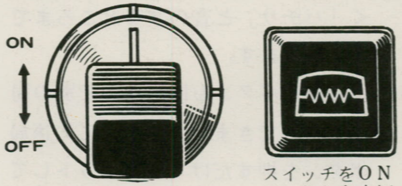


エンジン·スイッチの前に付いています。スイッチを上にすると左右前後の車幅灯が点灯します。

夜間路上駐車時に使用します。

■リヤ・ウインドゥ・デフォガ・スイッチ

1400,1600ハイデラックス,ＳＬ,ＧＳＬ標準，デラックス，1200ハイデラックスオプション



スイッチをＯＮにしたとき点灯

リヤ・ウインドゥが曇ったとき，ガラスの表面を暖めて，曇りをとります。

★ 注 意

デフォガは消費電力が大きいので，リヤ・ウインドゥの曇りが消えたらスイッチを切ってください。

スイッチを入れ放しにしておくと，バッテリー上がりの原因になります。

室内の曇りを取るもので，雨水を乾燥させたり雪をとかす能力はありませんので必要以上に使用しないでください。

■シガレット・ライター

除くスタンダード車



シガレット・ライターは，押しこんだらすぐ手を離してとび出すのを待ちます。

★ 注 意

押えつけたままでいると，シガレット・ライターをいためます。

運転を楽しく，快適に

■ラジオ

ラジオは，エンジン・スイッチがONかACCのときに聞くことができます。

AMラジオ **スタンダード除く全車標準 スタンダードオプション**

〈電源スイッチとアンテナ〉

電源スイッチ（POWER）を押すと，「カチッ」と鳴って電源が入ります。切るときは，もう一度このスイッチを押してください。ダイヤル照明は電源スイッチに関係なく，車のライティング・スイッチと連動して点滅します。

アンテナを伸ばしたいときは手で引き出します。

〈マニュアル選局〉

選局ツマミ（TUNING）で，ダイヤル指針を希望の局に合わせてください。

〈選局ボタンのセットのしかた〉

1．選局ボタンの1つをいっぱい引き出す。

2．選局ツマミでダイヤル指針を希望の局に正しく合わせます。

3．引き出した選局ボタンを指先で力強く「パチリ」と音のするところまで押し込みます。

4．他の選局ボタンも同じ要領で別の局にセットできます。あとはこの選局ボタンを押すだけで先にセットしておいた局が受信できます。

一度セットした放送が聞き苦しくなったり，他の局に替えたいときは，再び選局をしなおしてください。

〈音量調整〉

音量調整ツマミ（VOLUME）を右に移動させると音量が大きくなり，左に移動させると音量が小さくなりますから，適当な音量に調整してください。

〈音質調整〉

音質調整ツマミ（TONE）を右に移動させると高音が強調され，左に移動させると低音が強調されますから，お好みの音質に調整してください。

AM・FMマルチラジオ

全車オプション部品

〈AM・FMの切替〉

AM・FMの切替えは選局ボタンで行ないます。

AM放送受信中にFM放送に切替えるときは，FM選局ボタンを押してください。次に選局ツマミをまわし，お望みの放送を選んでください。FM放送からAM放送に切替えるときはAM選局ボタンを押します。AM・FMの切替え選局ボタンを押した後でなければ，選局ツマミによる希望の局には同調できません。選局ボタンのセットはFM2局，AM3局がセットできます。

〈FMモノーラル・FMステレオ切替〉

右はしにFMモノーラルとFMステレオの切替え用FMステレオボタン(MO/ST)がついています。FMステレオ放送を聞くときは，このボタンを押しこんでください。ダイヤル目盛左側のFMステレオインジケーター（ST）が点灯しステレオ放送が受信できます。このボタンをもう一度押すとFMモノーラルになります。

〈バランス調整〉

バランス調整ツマミを（R）側にまわすと右側の音が大きくなり，（L）側にまわすと左側の音が大きくなります。左右の音が中央で聞こえ，もっともステレオ感がもりあがるように調整してください。

〈その他の操作〉

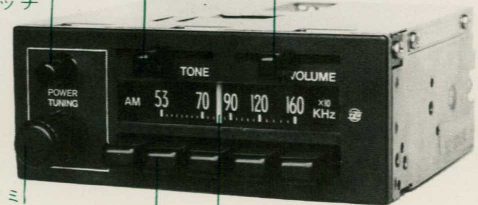
ダイヤル照明や，その他の操作については，AMラジオと同じです。

〈FMステレオを上手に聞くには〉

FM放送の電波はAM放送に比べ到達距離が短かくまた直進性のため，ステレオで聞いている時，ビル街や山の陰，また電波の弱い場所ではシャッシャッと音が変ったり，FMステレオ・インジケーターが点滅することがあります。これは電波が急に弱くなるためで，ラジオの故障ではありません。

なおこの場合はFMステレオボタンをもう一度押してモノーラルにしてください。

●AMラジオ



●AM・FMマルチラジオ



聞きやすくなります。又アンテナはいっぱいに伸ばしてお使いください。

〈雑音が気になるときは〉

放送電波が雑音電波より弱い場合は，プップッと雑音が混入します。このような場所では次のように操作してください。

1．エンジンをかけた状態で，選局ツマミをまわし，雑音がいちばん少ないところへ合わせ直してください。

2．さらに電波の弱い地域で，どうしても雑音が気になるときは，音質調整ツマミを左にスライドして低音にすると，聞きやすくなります。

■カセット・ステレオ

全車オプション部品

〈演奏開始〉

カセット・テープをテープ差込口に正しく差し込んでください。自動的に〝ロック〟され，演奏がはじまります。

〈音量調整〉

音量調整ツマミを左右にまわして適当な音量に調整してください。

〈音質調整〉

音質調整ツマミを左右にまわしお好みの音質調整してください。

〈バランス調整〉

バランス調整ツマミをまわし，左右の音が中央で聞こえ，もっともステレオ感がもりあがるように調整してください。

〈プログラム切替〉

A．手動反転

演奏中，プログラム切替ボタンを軽く押すと，走行表示ランプが切替わり同時にテープ走行方向の切替えができ，お好きなプログラムが選べます。

B．自動反転

片面のプログラムが終りテープが終端になると，自動的にテープ走行が反転し，走行表示ランプとともにプログラムが切替わり，ひきつづき次のプログラムの演奏が始まります。

〈早送り（ＦＦ），巻戻し（ＲＥＷ）〉

演奏中，早送り，巻戻しボタン（F/Rボタン）を押すと，テープの早送りまたは巻戻しができます。

走行表示ランプの点灯している矢印マークと同一方向矢印マークのF/Rボタンを押すと，テープ早送りができ，逆方向矢印マークのF/Rボタンを押すとテープ巻戻しができます。

〈早送り，巻戻しのストップ〉

ストップ，エジェクトボタンを軽く押すと，テープの早送り，巻戻しを解除することができます。この場合解除と同時に，再び走行表示ランプの方向のプログラム演奏が始まります。

早送り，巻戻し操作中テープ終端になりますと，自動的に早送り，巻戻しが解除されます。早送りの場合は自動反転して次のプログラムの演奏が始まり，巻戻しの場合は再び始めからそのプログラムの演奏が始まります。

〈演奏停止〉

演奏を停止させ，テープを取り出したいときは，ストップ・エジェクトボタンを強く押し込んでください。カセット・テープは手前に押し出され，電源が切れます。

〈走行表示ランプについて〉

本機左方の走行表示ランプの走行方向を示しています。

カセット・テープの走行方向が左矢印方向のときは，差し込まれたテープ上面のラベルのプログラム，右矢印方向のときはラベル下面のプログラムを演奏しています。

★ 注 意

1．テープを演奏状態のままエンジン・キーを切らないでください。回転むらやテープ巻込みの原因になります。

2．たるんだテープは，巻込みなど故障の原因になりますので，必ずテープのたるみをなおしてからご使用ください。

3．C－120テープおよびクローム・テープは使用しないでください。
テープのまきつきやヘッドの摩耗を早めます。

●カセット・ステレオ



■ヒーター

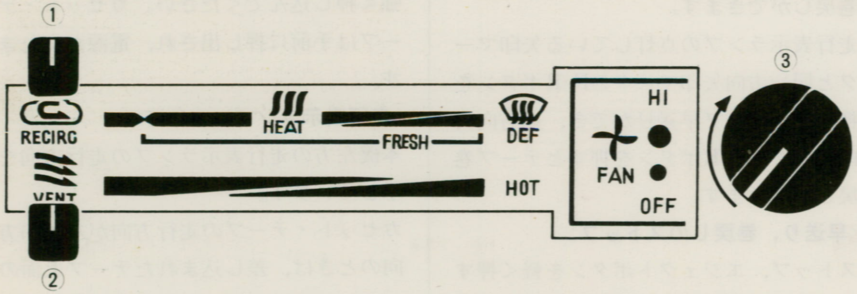
スタンダード除く全車標準，スタンダードオプション

このヒーターは，２本のコントロール・レバーと，ファン・スイッチの操作により，快適な室内にすることができます。

ヒーターは次のような機能をもっています。

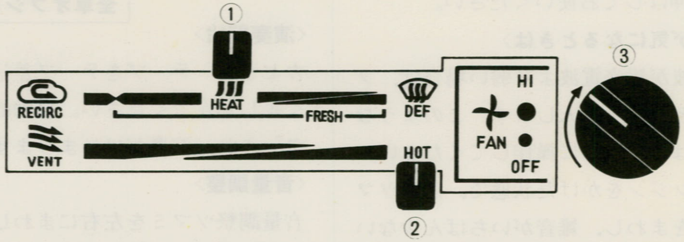
①ヒーター（暖房用）として
②デフロスタ（曇り止め）として
③強制ベンチレーション（換気用）として

上記の目的でヒーターをご使用になるとき以外は下図のようにレバーをすべて左へセットしておいてください。



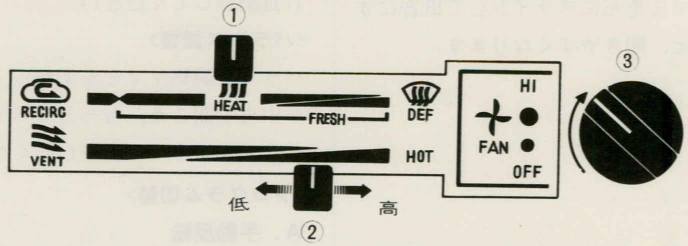
①吹出し口切替レバー	②温度調節レバー		③ファン・スイッチ	
RECIRC 内気循環で足元へ風が出る。	VENT	上半身に向って風が出る。（強制ベンチレーション）	HI	高速回転
HEAT 外気導入で足元へ風が出る。		低温 上半身に向って微風が出ると同時に足元へ風が出る。	○	中速回転
			FAN ○	低速回転
DEF 外気導入でフロント・ガラスへ風が出る。	HOT	高温	OFF	ファン停止

①車内を暖める操作



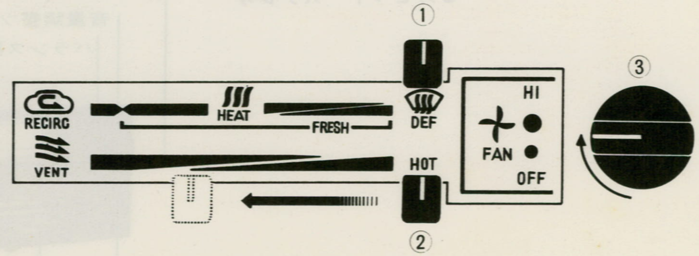
①のレバーをＨＥＡＴの位置に②のレバーをＨＯＴの位置にして③のファン・スイッチをＨＩにしてください。最大暖房を得たいときにお使いください。

②車内温度の調節の操作（頭寒足熱暖房の操作）



①のレバーをＨＥＡＴの位置に②のレバーをお好みの位置(赤色帯間)にし，ファン・スイッチを入れてください。長距離ドライブなどで車内が暑すぎる場合に②のレバーを操作してお使いください。又②のレバーが白色帯間にかかると上半身への微風が出はじめ頭寒足熱をたすけて車内を快適にします。

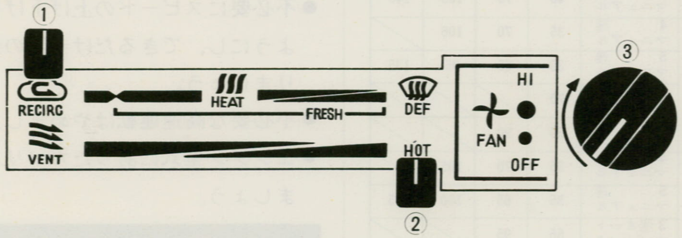
③フロント・ガラスの曇り止め操作



①のレバーをＤＥＦの位置に②のレバーをＨＯＴの位置にし，ファン・スイッチを入れてください。

①のレバーは曇りの状態により適当にＤＥＦ～ＨＥＡＴの中間にセットすることも出来ます。又，吹出し温度は②のレバーを赤色帯間で動かすことにより吹出し空気温度が変化します。梅雨時などで温風は不快と感じる場合には②のレバーを破線の所で使用ください。

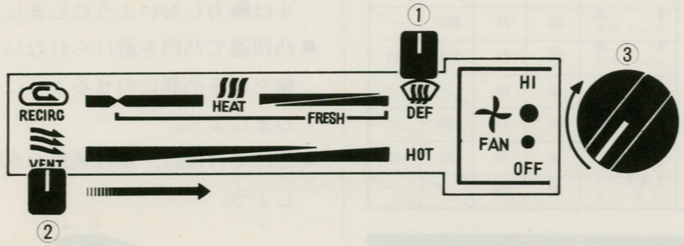
④よごれた外気をさけて暖房したいとき、冬期停車で室内を早く暖めたい時の操作



①のレバーをＲＥＣＩＲＣの位置に②のレバーをＨＯＴの位置にして③のファン・スイッチを好みの位置にセットしてください。室内循環の暖房になります。

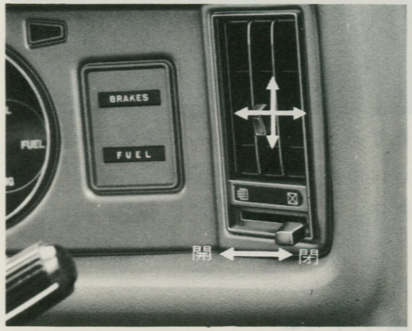
この操作方法での長時間使用はさけてください。窓がくもり易くなったり，タバコ等で車内の空気がよごれたりします。

⑤車内の換気をする操作（強制ベンチレーション）



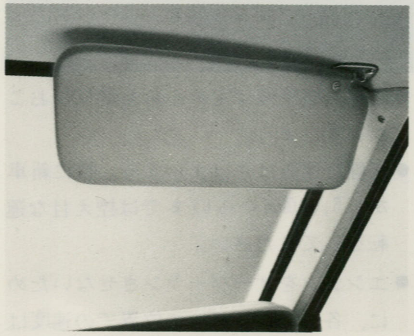
①のレバーをＤＥＦ又はＨＥＡＴの位置に②のレバーをＶＥＮＴの位置にして③のファン・スイッチを入れてください。新鮮な外気を導入して，車内を換気するときにお使いください。センター・ルーバーから多量の外気が吹き出します。吹き出しの方向を変えることにより直接体に冷風を当てることができ，扇風機のような涼風感が得られます。高速道路で窓を閉じて走行するとき，梅雨時に窓全体がくもりやすいときに有効です。また③のファン・スイッチをOFFにした時は自然導入換気状態となります。

■サイド・ベンチレーター



走行中車内の空気を入れかえたいとき使用します。ベンチレーター・ノブを内側に移動させると，ルーバーから車外の新鮮な空気がはいってきます。ルーバーのつまみを動かして風向きを調整してください。

■サン・バイザー



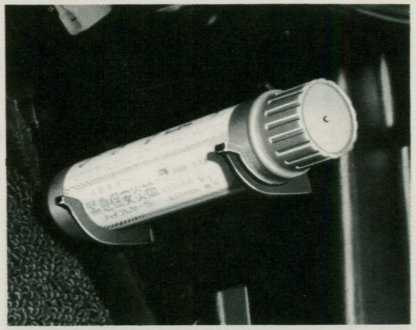
横にまわすこともできます。

■保安炎筒

非常事態が発生したときに使用します。使用法は保安炎筒に書いてある説明をよく読んで万一に備えてください。

保安炎筒には有効期限があります。その有効期間は３年で，有効期限は保安炎筒のラベルに明示されていますので確認しておきましょう。

発炎時間は約５分間です。



★ 注 意

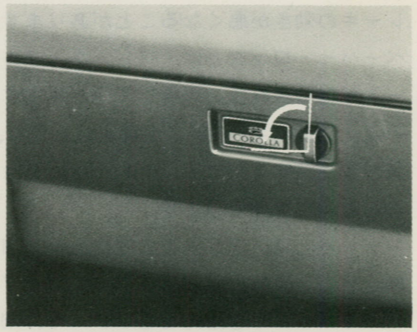
非常信号用としてのみ，ご使用ください。

使用中，筒の先を顔や体に向けたり，近づけたりすると火傷の危険があります。

取扱いには十分注意してください。

トンネル内で使用すると視野がわるくなり危険ですので，保安炎筒は絶対使用しないでください。

■グローブ・ボックス



つまみを左にまわして開けます。

上手な運転のしかた

上手な運転とは，何よりもまず安全に車を運転することです。決して高度の技術を要する運転を言うのではありません。安全運転とは車の性能を十分認識し，あなたの今までの運転経験を生かして法令にしたがって秩序よく，最も有効的に車をお使いいただくことです。それが結局は事故防止に役立つと共に車を長持ちさせることにもなります。安全運転のために，この項目を役立ててください。

ブレーキ,クラッチの使い方

■ブレーキ

ブレーキ・ペダルは，2・3度にわたって踏むとより安定した制動を得られます。また，早目に後続車に知らせることにもなります。

長い下り坂では，ブレーキを踏み続けるのをやめエンジン・ブレーキを活用しましょう。ブレーキを踏み続けると，ベーパー・ロックや，フェードを起こし，ブレーキの効きが悪くなることがあります。

ベーパー・ロックとは，ブレーキ・フルードが加熱されて，沸騰して泡が発生すると，ブレーキ・ペダルを踏み込んでも，気泡を圧縮するだけで，ブレーキ力とはならない現象をいいます。

フェードとは，ブレーキの摩擦面が，加熱されると摩擦力が減るので同じ力でブレーキ・ペダルを踏んでもブレーキの効きが，悪くなる現象をいいます。

■クラッチ

ギヤ・シフトはクラッチ・ペダルを十分に踏み込んでから行ないましょう。

走行中，クラッチ・ペダルに足を乗せないようにしましょう。クラッチの不具合の原因になります。

エンジンを長持ちさせるために

- 定期点検整備は定められた通りにおこないましょう。
- 無理な運転はさけましょう。特に新車から5,000kmぐらいまでは控え目な運転をしてください。
- エンジンをオーバーランさせないために，各シフトレバーの位置での速度は表の数値を越えないように運転してください。

エンジン型式	ミッション種類	1速	2速	3速	4速
3K−H	4速マニュアル	35	65	95	
	5速マニュアル	35	60	90	130
	2速オートマチック	70			
3K−BR	4速マニュアル	35	70	100	
	5速マニュアル	35	65	95	130
3K−B	4速マニュアル	40	75	115	
	5速マニュアル	40	70	105	145
T	4速マニュアル	35	70	100	
	5速マニュアル	35	65	95	135
	2速オートマチック	70			
	3速オートマチック	55	90		
T−BR	4速マニュアル	35	70	105	
	5速マニュアル	35	65	100	135
	3速オートマチック	55	95		
T−B	4速マニュアル	40	75	110	
	5速マニュアル	40	70	105	145
	3速オートマチック	60	100		
2T	4速マニュアル	35	70	105	
	5速マニュアル	35	65	100	140
	3速オートマチック	55	95		
2T−BR	4速マニュアル	35	75	105	
	5速マニュアル	35	70	105	140
	3速オートマチック	55	95		
2T−B	4速マニュアル	40	75	110	
	5速マニュアル	40	70	105	145
	3速オートマチック	60	100		

経済的な運転

- エンジンが冷えていると熱効率が悪いので十分ウォーミング・アップをしましょう。
- エンジン回転数と車速をマッチさせた，ギヤ・シフトをしましょう。（除くオートマチック・トランスミッション車）
- 急停車，急発進はできるだけ避けましょう。
- 停車中の半クラッチは避けましょう。
- 不必要にスピードの上げ下げをしないようにし，できるだけ一定の速度で走りましょう。
- 不必要な高速運転はやめましょう。
- エンジン型式にあったガソリンを入れましょう。

悪路走行

- ぬかるみ・砂地・ジャリ道では，スピードを落し，不必要な変速・急ハンドルは極力しないようにしましょう。
- 凸凹道で凸凹を避けられないときは片輪だけを凸部にのせるようにして走行しましょう。
- 悪路走行後は，走行装置の点検をしましょう。



悪天候時の運転

〈霧の日の運転〉

- クリアランス・ランプまたは，ロー・ビームを点灯して走行しましょう。フォグ・ランプ付車は，フォグ・ランプを点灯しましょう。
- 先行車のある場合はその車のテール・ランプを目印に走行しましょう。

〈雪路・凍結路運転〉

- 道路の状況に応じてスノー・タイヤやタイヤ・チェーンなどを装着して走行しましょう。
- 路面がすべりやすいのでスピードの出しすぎや急加速・急ブレーキ・急ハンドルは非常に危険です。タイヤの接地力が小さくなるためスリップを起こしやすくなります。

★注意

地域によっては，条例等で雪路走行の場合は，タイヤ・チェーンまたは，スノー・タイヤの使用が義務づけられていますので，シーズン前に準備をしましょう。

坂路走行

- 登り坂ではノッキングさせないように早目にギヤ・シフトをしましょう。
- 下り坂ではエンジン・ブレーキを活用しましょう。適切なシフト・ダウンをしてスピードをコントロールしてください。

高速道路での運転

〈基礎知識〉

普通走行では，ほとんど支障のないようなことでも，高速走行では大きな故障や事故の直接の原因となることがありますので，次のことを心掛けてください。

- 仕業点検は完全に行ないましょう。
  特にタイヤの点検は念入りに
  詳しくは「仕業点検」の項を参照
- 急ハンドルはきらないこと。
  ハンドルは両手で確実に持っていること。
  (片手ハンドルはしないようにしましょう。)
- 急ブレーキは絶対にかけないこと。
- 車間距離は十分保つこと。
  走行速度と同じ数値の距離(例えば100km/hのとき100m以上)を保つのが基本です。
- 路面がぬれている場合はタイヤが滑りやすいのでスピードを落としましょう。
- 風の強いときはスピードを落としましょう。

〈本線への進入〉

- ターン・シグナルを早目に出しましょう。
- 加速車線で十分加速し後方を十分に確認をしてはいりましょう。

〈本線では〉

- カーブはスピードのコントロールを十分しましょう。
- 追い越しをするときは，車の流れを確認しましょう。
- 車線変更合図は早目に確実にしましょう。
- トンネル内は必ずヘッドライトを点灯しましょう。
- 進入車には走行車線をゆずりましょう。

〈本線からでるときは〉

- 出口の表示を確かめ，ターン・シグナルを出しましょう。出口を行きすぎても，もどることはできません。
- ランプ・ウェイでは速度感覚が違いますからスピード・メーターを見て指示速度に減速しましょう。

〈高速道路で，故障と事故が起きた場合は〉

- 本線では路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させたりエマー・フラッグ（赤旗）で後続車に緊急を知らせましょう。
- 故障・ガス欠・事故は非常電話で通報しましょう。
- 電話のない所では，巡回サービスカーがくるまで待ちましょう。
- けん引は勝手にしないようにしましょう。
  高速道路では友人の車がいても勝手にけん引することは禁じられています。
- トンネル内では，簡単な修理でも可能な限りトンネル外へ出ましょう。

緊急処置

■ぬかるみ，砂地に車がはいったとき

むやみに，アクセルをふかして車輪を空転させないでください。



タイヤの下にわら，むしろ，板，小枝などを敷いて車を前後にゆさぶり反動で抜け出しましょう。

また，タイヤの空気を抜いて路面との接地力をよくすると抜け出すことができます。そのあとで空気を入れることを忘れないようにしましょう。

砂地ではタイヤの下に水をまくと抜け出すこともできます。

■雪路・凍結路で車が横すべりを始めたとき

急ブレーキを踏むと横すべりがひどくなりますのでエンジン・ブレーキを使ってください。

横すべりを始めた方向へハンドルをきって進路をたて直しましょう。

■降雨時，水たまり走行後ブレーキが効かなくなったとき

控え目のスピードで走行し，時々ブレーキ・ペダルを踏みながら，ドラム・ブレーキ内に入った水を早く乾燥させます。

■雨の日のブレーキは

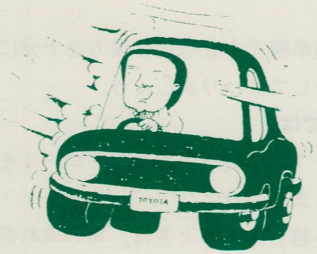
タイヤがすべりやすくなりますから，早目に踏みましょう。急ブレーキは踏まないように。



■高速走行中，横風をうけたとき

ハンドルをしっかり持ち，急ブレーキは踏まないようにしましょう。スピードも落としてください。

高速道路を走行する時は風の強さに気をつけましょう。



■ガソリンを吸いこみすぎたとき

しばらく時間をおいてかけ直します。あるいは，アクセル・ペダルをいっぱい踏みこんだままスターターをまわします。

但し，連続で15秒以上は回さないでください。

■バッテリー上がりの時

マニュアル・トランスミッション車

エンジン・スイッチをＯＮにしてギヤをセカンドまたはサードに入れクラッチを踏んだ状態で車を押すか，けん引してもらいます。

スピードが10km/hくらいになったとき，クラッチから足をゆっくり離します。エンジンがかかったらすぐクラッチを踏み，ギヤをニュートラルにします。

オートマチック・トランスミッション車

〈２速オートマチック・トランスミッション車〉

エンジン・スイッチをＯＮにしてコントロール・レバーをⒹ又はⓁに入れ，車をけん引してもらいます。スピードが30～40km/hでエンジンがかかります。エンジンが，かかったら，レバーをⓃに入れます。

〈３速オートマチック・トランスミッション車〉

けん引によるエンジン始動はできません。サービス工場で点検を受けてください。けん引する場合は後ろの車輪をつりあげるかプロペラシャフトを取りはずしてください。

★ 注 意

けん引によるエンジン始動後は，けん引車に追突しないように特に気をつけてください。

仕業点検

点検個所

■仕業点検と高速走行前の点検

事故を未然に防ぐには，車の状態をいつもよく知っておくことが大切です。**仕業点検は毎日欠かさず行なってください。**

また高速で走るときは車に大きな負担がかかります。高速走行（80km/h以上）の予定のある場合には，色字の項目も追加して点検してください。

黒字＝毎日点検の項目

色字＝高速走行前点検の追加項目

※＝次項に説明してあります。

■点検は次の順序で実施してください。

1 前日の異常個所

2 エンジン・フードを開けて

●ブレーキ・フルード，クラッチ・フルードの量　※1

●エンジン・オイルの量　※2

●オートマチック・トランスミッション・フルードの量　※3

●ファン・ベルトの張り具合い，損傷　※4

●冷却水の量　※5

●ラジエータ・キャップの取り付け状態

●ウインドゥ・ウォッシャー液の量

3 運転席に座ってエンジンを始動して

●燃料計の作動

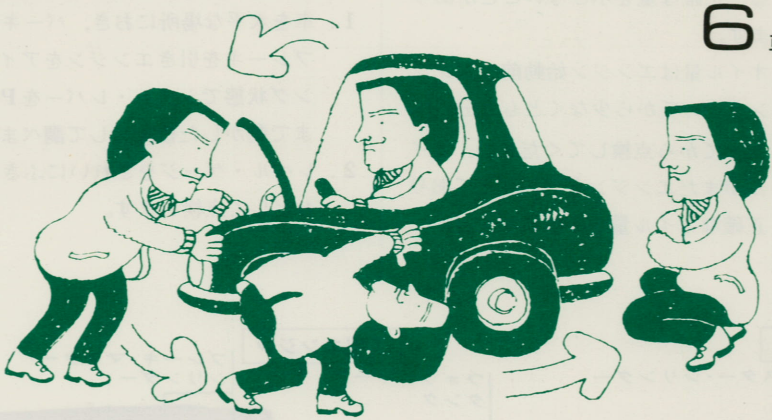
●燃料は十分か

●電流計，油圧計の作動または，警告灯の点滅具合い

●ターン・シグナル・ランプの点滅

●ワイパー，ホーンの作動

●ウインドゥ・ウォッシャー液の噴射具合



●リヤ・ビュー・ミラーの写影

●ハンドルの遊び，ガタ　※6

●ブレーキ・ペダルの踏み残り代　※7

●パーキング・ブレーキの引き代，効き具合い　※8

●ドア・ロックの具合い

●セーフティ・ベルトの損傷，取り付け状態

4 車の前から

●ランプ類の点灯および，汚れ，損傷　※9

●ライセンス・プレートの汚れ，損傷

●タイヤの空気圧，亀裂，損傷，異常摩耗　※10

●タイヤに金属片，異物がないこと

●タイヤの溝の深さは1.6mm以上であること　※11

●車が傾いていないこと

5 車の下をのぞいて

●冷却水，オイル漏れ点検

6 車の後から

●ランプ類の点灯および，汚れ，損傷　※9

●ライセンス・プレートの汚れ，損傷

●排気ガスの色　※12

●タイヤの空気圧，亀裂，損傷，異常摩耗　※10

●タイヤに金属片，異物がないこと

●タイヤの溝の深さは1.6mm以上であること　※11

●反射器の汚れ，損傷

●車が傾いていないこと

7 徐行しながら

●水温計・速度計の作動

●ハンドルの重さ，振れ，取られ

●ブレーキの効き，片効き

点検のしかた

①ブレーキ・フルード，クラッチ・フルードの量

ブレーキ・フルード

リザーブ・タンクの上方段付き部までフルードがあるかを調べます。

レベル以下に減ったときはトヨタ純正ブレーキ・フルード・グリコール2400Fを補給してください。

クラッチ・フルード 1400，1600cc車

上方段つき部までフルードがあるかを調べます。

★ 注 意

オートマチック車および1200cc車はクラッチ・フルードの量の点検の必要はありません。

②エンジン・オイルの量

レベル・ゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んで再び抜いてFとLの間にオイルがあるかを調べます。

L以下の場合は補給が必要です。

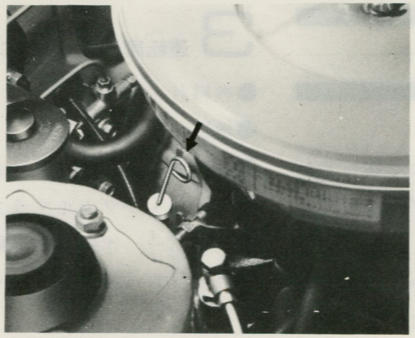


★ 注 意

1．点検するときは，車を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。

2．オイル量はエンジン始動前かエンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量が測れません。

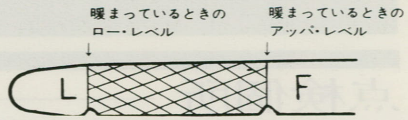
③オートマチック・トランスミッション・フルードの量



1．車を水平な場所におき，パーキングブレーキを引きエンジンをアイドリング状態でシフト・レバーをP～Lまで動かした後Ⓝにして調べます。

2．レベル・ゲージをきれいにふき再びもどして点検します。

〈2速オートマチック〉



〈3速オートマチック〉

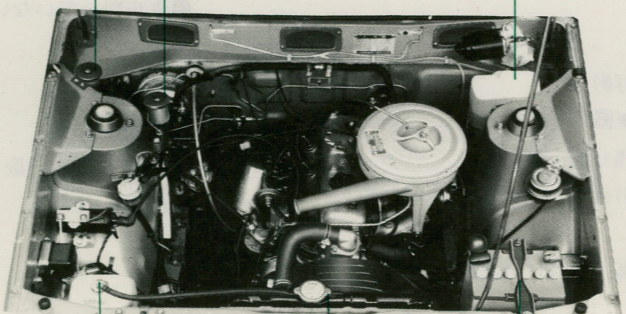


3．フルードが不足しているときは，規定量まで，補給してください。
フルードはトヨタ純正キャッスル・オート・フルード・スペシャルをご使用ください。

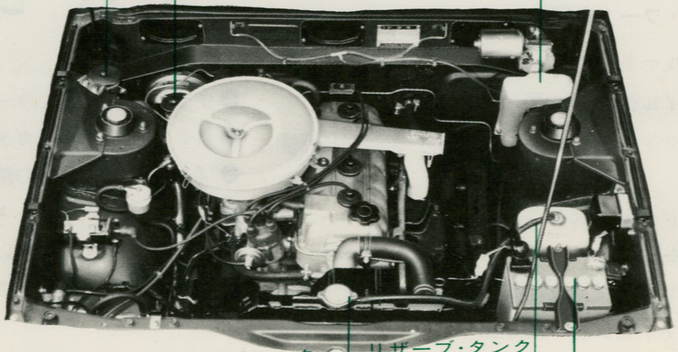
★ 注 意

フルードは規定量入れましょう。
規定量以外ですと作動がにぶくなります。

3K－H型エンジン

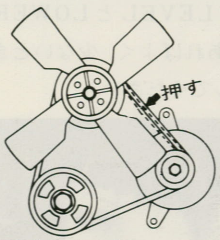


T型エンジン



4ファン・ベルトの張り具合い

図のように押さえて，たわみ量を点検します。また亀裂，はがれがないかを調べます。



5冷却水の量

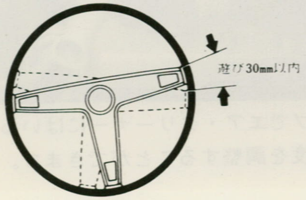
ラジエーターには，リザーブ・タンクが付いており，ラジエーター内の冷却水が少なくなると，リザーブ・タンクから自動的に補給される構造になっています。冷却水の量はリザーブ・タンク内の量を点検してください。またリザーブ・タンクは樹脂製半透明ですので外部から直接点検できます。FULLとLOWの間にあればよく，FULL以上は入れないでください。

★ 注 意

ラジエーター本体のキャップは通常はあけないでください。

6ハンドルの遊び

ハンドルを軽く左右に動かした時の遊びを調べます。

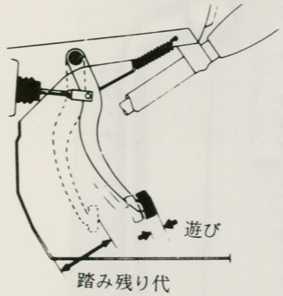


7ブレーキ・ペダルの踏み残り代

ペダルを踏んで遊びと踏み残り代を調べます。

遊び…………0.5～ 5mm(ブースタ付車は 3～6mm)

踏み残り代 1200cc車…………73mm以上
1400，1600cc車…85mm以上



8パーキング・ブレーキ・レバーの引き代

ブレーキ・レバーを引いて，引き代が適当であるかを(14ノッチ以内)調べます。ノッチとはパーキング・ブレーキ・レバーにあるギザギザ状のものをいい，これを引くとカチカチ音がしますが，このカチという音が1ノッチに相当します。

9ランプ類の点検

次のランプが点灯するかを点検し，汚れや損傷がないかを調べます。

ヘッド・ランプ
ハザード・ウォーニング・ランプ
クリアランス・ランプ
ストップ・ランプ
テール・ランプ
ライセンス・プレート・ランプ
メーター・パイロット・ランプ
ルーム・ランプ

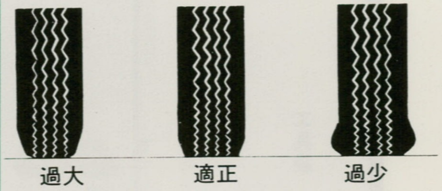
エンジンスイッチをＯＮにして

ターン・シグナル・ランプ
バック・アップ・ランプ

10タイヤの空気圧

タイヤの空気圧が適正であるかを次の方法で調べます。

1．外観から判断する目安は図のとおりです。



2．タイヤ・プレッシャー・ゲージを使う場合バルブ・キャップをはずして，ゲージを空気が漏らないようにバルブに押しつけます。
目もり板が飛び出した後，離して目もりを読みます。
測定後，空気が漏れないことを確かめてキャップをはめます。

タイヤの標準空気圧表が右側センター・ピラーにはってありますので，確認してください。

空気圧kg/cm²（　）高速時		
タイヤ　サイズ	前　　輪	後　　輪
6 00－12－4ＰＲ	1 6(1.9)	1.6(1.9)
6 15－13－4ＰＲ	1.6(1.9)	1.6(1.9)
Ｚ78－13－4ＰＲ	1.4(1.7)	1.4(1.7)
155ＳＲ13	1.7(1.7)	1.7(1.7)

★ 注 意

1．スペア・タイヤの空気圧も調べてください。
2．高速走行でのタイヤの空気圧は少し高めにします。低いとパンク，バーストを起しやすくなります。
3．チューブレス・タイヤの場合は，空気圧が極端に少ないとき，またはリムが変形されたときなどは，タイヤとリムの密着が悪くなり空気がもれるので特に注意してください。

11タイヤの溝の深さ

安全走行表示があらわれたらタイヤを早目に取り替えましょう。



12排気ガスの色

無色又は薄青色……正常

黒色………………混合気が濃すぎるための不完全燃焼です。ただし，チョークがきいているときは異常ではありません。



白色………………エンジン・オイルが燃えています。ただし，気温の低い場合は水蒸気で白く見えることがあります。

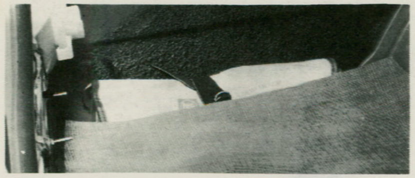


車の簡単な手入れと処置

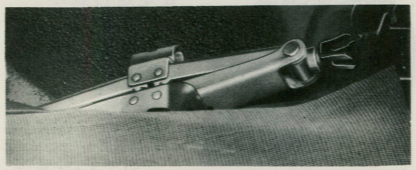
工具とジャッキ

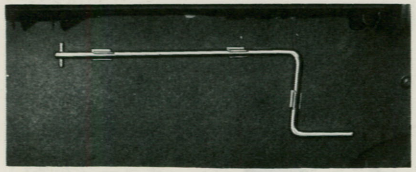
■格納位置

工具

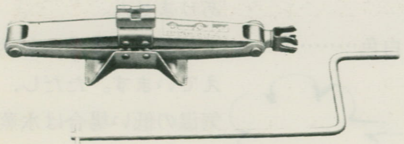


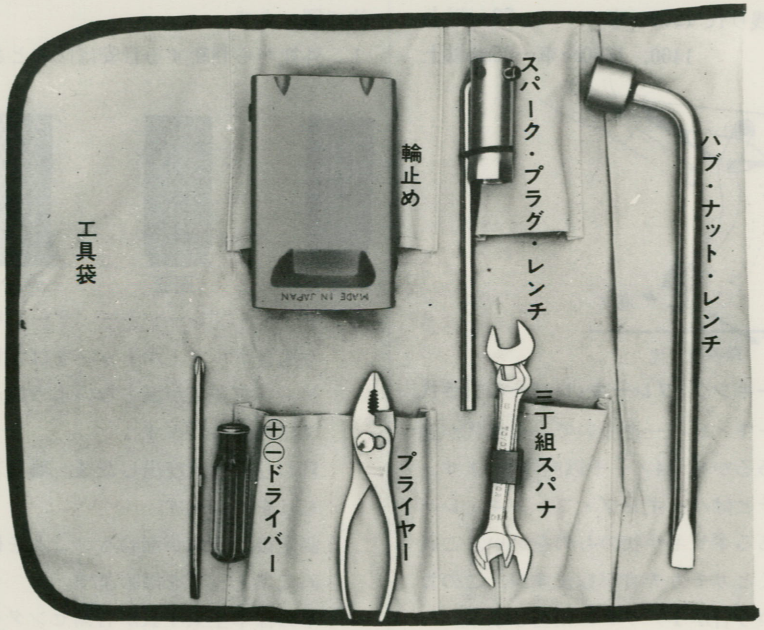
ジャッキ





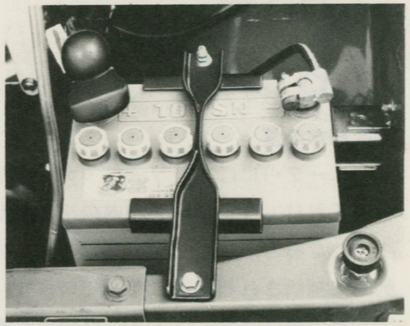
■ジャッキ





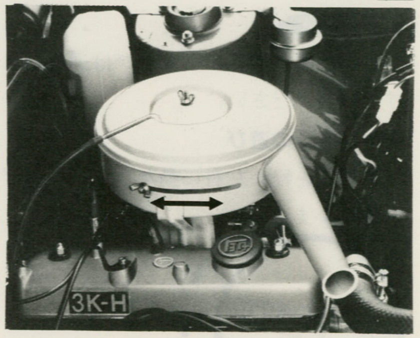
バッテリー液の補給

液面がUPPER LEVELとLOWER LEVELの間にあればよく，少ないときは蒸留水を補給してください。



吸気コントロール・バルブ

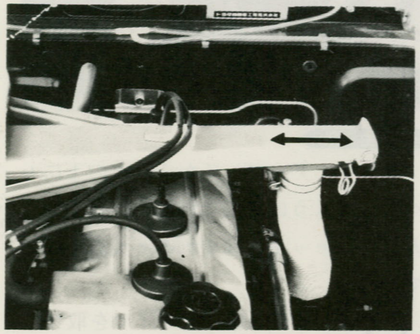
1200cc車



このバルブでエア・クリーナーにはいる空気の温度を調整することができます。

エア・クリーナケース右横のネジをゆるめてから，前後に移動させます。バルブは途中で止めないで前後いずれかの端に固定してください。(バルブ操作は外気温15℃を基準にして行ないます。)

1400，1600cc車



1200cc車と同じく吸入する空気の温度を調整することができます。バルブは吸気口右横のレバーを前後に移動させることにより調整できます。

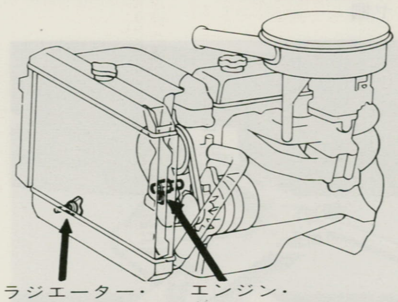
冷却水の交換

カローラには，必ずロングライフ・クーラントをご使用ください。

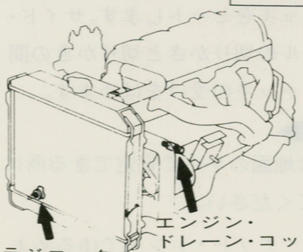
キャッスル・ロングライフ・クーラントは，冷却水と不凍液とを兼ねています。四季を通じて使用でき，通常は2年または40,000kmで交換してください。

交換する場合は次の要領で実施してくだ

冷却水の交換　**1200cc車**



1400，1600cc車



1．図に示すエンジン・ドレーン・コック，ラジエーター・ドレーン・コックをはずし，冷却水を全部出します。

2．水道の水でラジエーター内を洗浄しエンジン・ドレーン・コックとラジエーター・ドレーン・コックを取り付けます。

3．ロングライフ・クーラントの注入量は，下記の表を参照してください。

凍結防止温度			−15℃まで	−38℃まで
ロングライフ・クーラントの濃度			30%	50%
参考	冷却水量	3K−H 3K−B(R)	6.5ℓ	
		T T−B(R) 2T 2T−B(R)	7.8ℓ	

冷却水の補給

冷却水を補給する場合は左記の表の割合でロングライフ・クーラントを補給してください。

★ 注 意

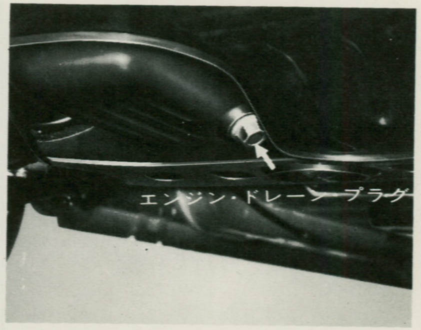
1．新車および冷却水交換後，エンジン内に空気が残りしばらくは冷却水の減少が見られますが異常ではありません。

2．補給はリザーブ・タンクに行なってください。LOWとFULLのレベルの間に保ってください。

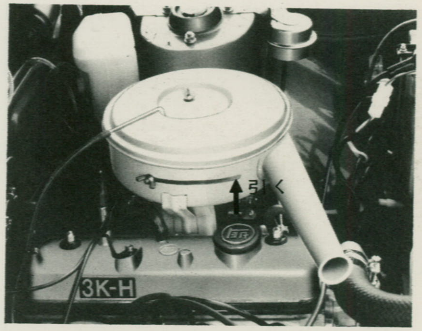
FULL以上は入れないでください。

エンジン・オイルの交換

1　エンジン・ドレーン・プラグをはずしてオイルを出します。



2　ドレーン・プラグを取り付け，オイル・フィラー・キャップを取りはずしオイルを注入します。



オイルはトヨタ純正キャッスル製品をご使用ください。

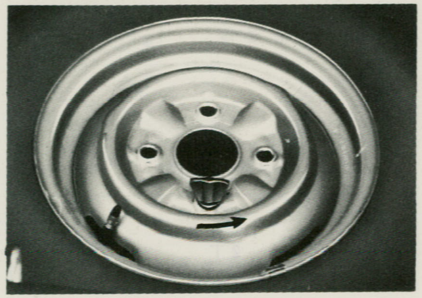
SEオイル（キャッスル・モーター・オイル・スーパー・デラックス）＝8,000km または，6ヵ月ごと（寒冷地および過酷

な条件で使用される場合はSEオイルでも5,000km）
SC, SDオイル（その他のキャッスル・モーター・オイル）＝5,000kmまたは，6ヵ月ごとに交換してください。

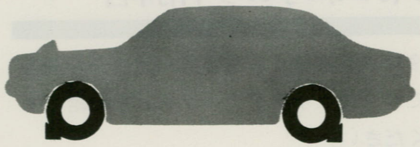
パンクの処置

車を道路の左はしによせて

1 工具，ジャッキ，スペア・タイヤをとり出します。



2 スペア・タイヤ，止めネジを左にまわしてとり出します。



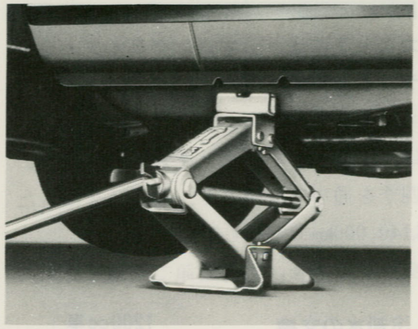
3 輪止めをします。
右側パンク時…左側前後のタイヤ
左側パンク時…右側前後のタイヤ

4 ジャッキがはずれたときの危険防止のため，スペア・タイヤをパンクしたタイヤ近くのボデーの下に置きます。

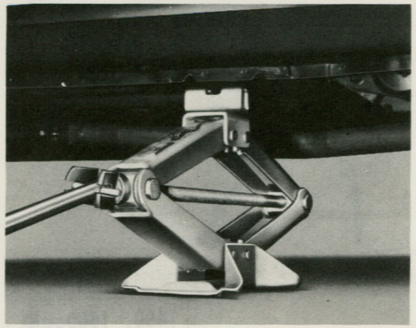
5 ホイール・キャップをドライバーまたはハブ・ナット・レンチ等ではずします。直接ホイール・キャップに指をかけて引くことはやめてください。

ジャッキ・セット

フロント側



リヤ側



6 ジャッキをセットします。サイド・レールの切りかきと切りかきの間にジャッキの受けをはめます。

★ 注 意

ジャッキは地面の平らで安定できる所にセットしてください。

7 ハブ・ナット・レンチでゆるめます。ナットは手でまわる位までゆるめておきます。

8 タイヤと地面とが少しあくまでジャッキ・アップします。

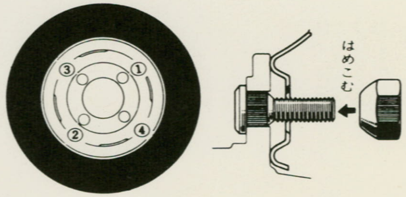


★ 注 意

ジャッキ・アップしてからは車の下にもぐらないようにしてください。
万一，ジャッキがはずれると大変危険です。

9 ナットをはずし，タイヤを取りかえます。

10 ナットのテーパー部がホイール穴のシート部に軽く当たり，タイヤがガタつかない程度までナットを締めます。



11 ジャッキをはずし，ナットは図の数字の順序に2～3度にわたり，十分に締めつけます。

12 タイヤの空気口にキャップの穴を合わせホイール・キャップをとりつけます。

13 工具ジャッキを片ずけましょう。

14 パンクしたタイヤを積みましょう。スペア・タイヤの空気圧は規定空気圧より少し高めにしておきましょう。

★ 注 意

チューブレス・タイヤのパンク修理はチューブ入りタイヤと修理方法がちがいますので，確実に修理のできる工場で行なってください。

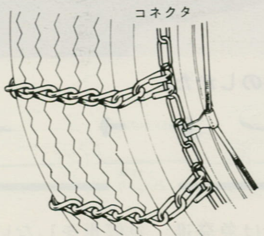
タイヤ・チェーン

タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。

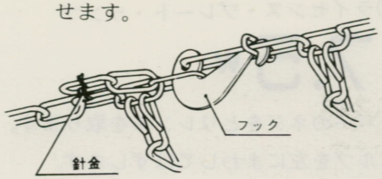
〈取り付け方〉

1 前輪に輪止めをし，後輪をジャッキ・アップします。



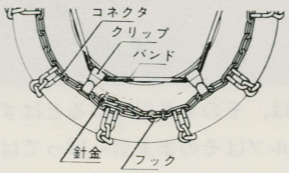


2 コネクタの折り曲げを外にしてタイヤを回しながらチェーンをかぶせます。



3 チェーンの両端をいっぱい引っぱって連結します。余ったチェーンは（ボデーに当たるのを防止するために）図のように針金で結びます。

4 チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし，チェーンをひっぱります。



5 ジャッキをはずします。

〈取りはずし方〉

1 チェーン・バンドをはずし，針金をとりフックは内側から先にはずします。

2 車を少し動かし，チェーンをとりだします。

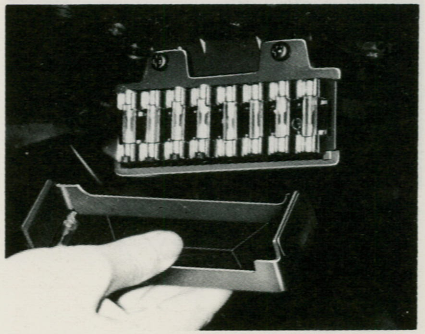
★ 注 意

タイヤ・チェーンを装着して，走行する場合は速度を50km/h以下で走行してください。

ラジアル・タイヤは，ラジアル・タイヤ専用のタイヤ・チェーンを装着してください。

ヒューズ，ランプの交換

〈故障の調べ方〉



運転席右足もとのヒューズ・ボックスのふたにヒューズ容量と主回路名が記入してあります。

そのヒューズの受けもっている配線全部が作動しないときはヒューズきれと考えられます。

1つだけ作動しないときは，ランプ切れかまたは配線に不具合があります。

〈ヒューズの交換〉

1．ヒューズ・ボックスのふたを取ります。

2．ヒューズをはずします。

3．切れたものと同容量のヒューズを交換します。
何度もヒューズが切れる場合は，針金，銀紙等を使用しないで，サービス工場で点検を受けてください。

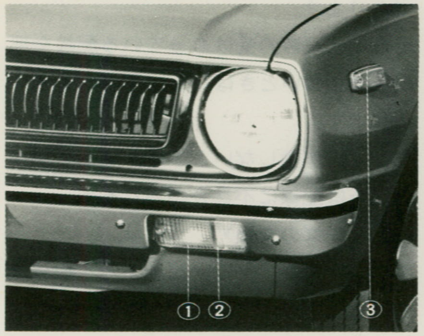
■ヒューズ配線図

TAIL テール・ランプ	テール・ランプ，ヒーター・コントロール・インジケータ・ランプ，ラジオ照明 パイロット・ランプ(メーター照明)，クリアランス・ランプ ライセンス・プレーン・ランプ，アッシュ・トレイ・インジケータ・ランプ
STOP ストップ・ランプ・ホーン	ホーン，ストップ・ランプ，パーキング・ランプ，ハザード・ウォーニング・ランプ
LIGHTER シガ・ライター ルーム・ランプ	ルーム・ランプ，時計，シガレット・ライター
RADIO ラジオ	ラジオ，ステレオ
HEATER ヒーター	ヒーター
ENGINE エンジン	ウインドゥ・ウオッシャ，ワイパー，ターン・シグナル・ランプ
TURN WIPER ターン・ワイパー	イグニッション・コイル，ボルテージ・レギュレーター
DEFOG デフォッガ バック・ランプ	リヤ・ウインドゥ・デフォッガ，メーター，ゲージ

すべて15Aです。

■ランプの交換

フロント側



①フロント・ターン・シグナル・ランプ（ハザード・ウォーニング・ランプ）

23 W

②クリアランス・ランプ（フロント・パーキング・ランプ）

5 W

③サイド・ターン・シグナル・ランプ

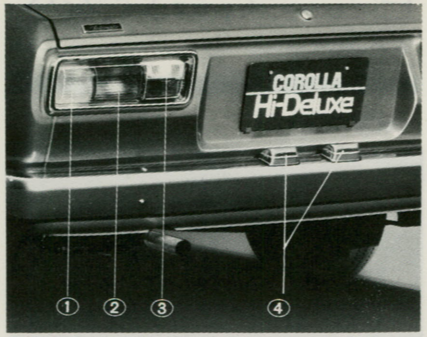
5 W

バルブ類の交換はレンズ表面のネジをはずして，レンズをとりバルブをいっぱい押し込んで左へまわしてはずします。
サイド・ターン・シグナル・ランプのバルブは引っぱって取りはずします。
バルブをはめるときはバルブをいっぱい押し込んで右に回してください。

★ 注 意

ソケットおよび接点部の錆，汚れを取ってください。

リヤ側



①ターン・シグナル・ランプ（ハザード・ウォーニング・ランプ）

23 W

②ストップ＆テール・ランプ（パーキング・ランプ）

21/5 W

③バック・アップ・ランプ

23 W

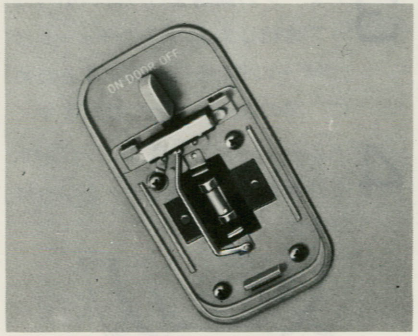
バルブの交換はトランク・リッドを開いてトランク内のランプ・カバーのネジを⊕ドライバーではずします。ランプ・ソケットは左へまわして取り出し，バルブはいっぱい押えて左へまわしてはずします。
はめるときは，切りかきをあわせて右へまわします。
ダブル・フィラメント・バルブはボッチの位置が左右違いますのでご注意ください。

④ライセンス・プレート・ランプ

7.5 W

カバーのネジをとりレンズを取ります。バルブを左にまわしてはずします。

ルーム・ランプ



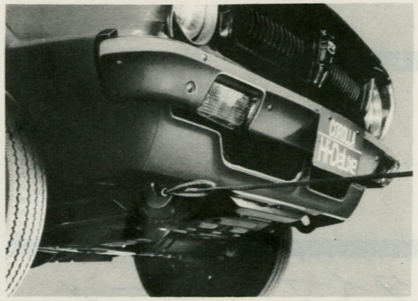
カバーは，そのまま引っぱるとはずれます。バルブはそのまま引っぱってはずします。

10 W（棒状）

けん引について―

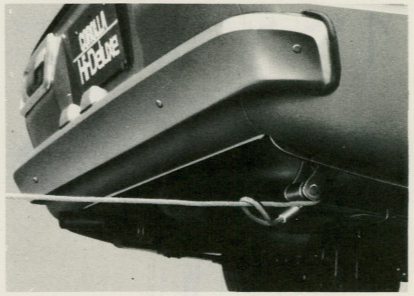
〈けん引ロープをかける位置〉

フロント側

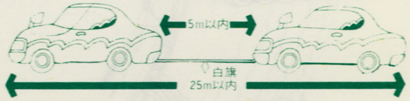


けん引フックをご利用ください。但し一般のけん引走行だけに使用し，大きな力をかけるような使い方はしないでください。

リヤ側



〈けん引のしかた〉



けん引車は急発進，急停車をしないようにし，けん引される車はけん引車のスト

ップ・ランプに注意し常にロープをたるませないように気をつけましょう。

★ 注 意

オートマチック・トランスミッション車の場合，後輪をつり上げるか，プロペラ・シャフトをディファレンシャル側でとりはずしてから，けん引してください。

外装の手入れ——

車を美しく保つには，日頃のお肌(塗装)の手入れが必要です。

ボディーのほこりは柔らかい布か毛ばたきでとりましょう。

塗装面が汚れたときは，なるべく早く洗車をし，汚れのひどいときはカーシャンプーを使用しましょう。

塩分や凍結防止剤が付着したときは必ず洗車しましょう。

ワックスがけは適時行なってください。

〈洗車方法〉

1 下まわりを洗います。

2 十分水をかけながら，スポンジかセーム皮で汚れを落とします。

3 汚れのひどいときは，ボデー温度が下ってからカーシャンプーを使用して洗います。

4 塗面に，はん点が残らないよう十分水分をふきとります。

〈ワックスがけ〉

1 1カ月に1度または水をはじかなくなったとき行なってください。

2 ワックスがけはボデーの温度が体温以下のとき行なってください。

3 使用方法はワックスの容器に記載されていますから，よく読んでお使いください。

4 ワックスは，トヨタ純正品で下記の名称のものをお使いください。

オートワックス・デラックス

オートワックス・カスタム

オートワックス・スペシャル

スピーディー・オートワックス・クリーン

スピーディー・ショット

★ 注 意

1. ワックスの中にコンパウンド（細い砂）の入っていないものをご使用ください。
   コンパウンドの入っているワックスを使用すると塗装の表面に細い傷が残ります。
2. エンジン・ルーム内の電気系統に水をかけないように注意してください。エンジン始動不良の原因となります。

仕様と整備基準値

仕様

寸法

	1200cc車	1400cc車	1600cc車
全長（m）	3.995	←	←
全巾（m）	1.570	←	←
全高（m）	1.375	←	←
ホイール・ベース（m）	2.370	←	←
トレッド前（m）	1.295	1.300	←
トレッド後（m）	1.285	←	←
乗車定員（名）	5	←	←

エンジン

型式名	3K−H	3K−B	3K−BR	T	T−B	T−BR	2T	2T−B	2T−BR
内径×行程（mm）	75.0×66.0	←	←	80.0×70.0	←	←	85.0×70.0	←	←
総排気量（cc）	1166	←	←	1407	←	←	1588	←	←
圧縮比	9.0	10.0	9.0	8.5	9.6	8.5	←	9.4	8.5
最高出力（PS/rpm）	71/6,000	77/6,600	74/6,600	86/6,000	95/6,000	91/6,000	100/6,000	105/6,000	100/6,000
最大トルク（kg−m/rpm）	9.7/3,800	9.8/4,200	9.7/4,200	12.0/3,800	12.3/4,000	12.0/4,000	13.7/3,800	14.0/4,200	13.9/4,200
点火順序	1−3−4−2								
バッテリー（寒冷地使用）	12V32AH（12V45AH）			12V35AH（12V45AH）					
使用ガソリン	レギュラー	ハイオクタン	レギュラー	←	ハイオクタン	レギュラー	←	ハイオクタン	レギュラー

車両重両

型式	KE30−KR	KE30−KD	KE30−CD	KE30−KN	KE30−MN	KE30−CN	KE30−KSB(R)	KE30−MSB(R)	KE30−KRF	KE30−KDF
重量(kg)	785	795	810	←	820	825	820	830	805	810
型式	KE30−CDF	KE30−KNF	KE30−MNF	KE30−CNF	KE30−KSFB(R)	KE30−MSFB(R)	TE30−KD	TE30−CD	TE30−HD	TE30−KN
重量(kg)	830	825	835	845	840	845	875	880	895	875
型式	TE30−MN	TE30−CN	TE30−HN	TE30−KSB(R)	TE30−MSB(R)	TE30−HSB(R)	TE30−KDF	TE30−CDF	TE30−HDF	TE30−KNF
重量(kg)	880	←	895	890	←	905	890	895	910	895
型式	TE30−MNF	TE30−CNF	TE30−HNF	TE30−KSFB(R)	TE30−MSFB(R)	TE30−HSFB(R)	TE31−KN	TE31−MN	TE31−HN	TE31−KZB(R)
重量(kg)	896	900	910	905	←	925	880	←	895	900
型式	TE31−MZB(R)	TE31−HZB(R)	TE31−KNF	TE31−MNF	TE31−HNF	TE31−KZFB(R)	TE31−MZFB(R)	TE31−HZFB(R)		
重量(kg)	900	915	895	←	915	←	←	935		

その他

〔トランスミッション〕	マニュアル・トランスミッション		オートマチック・トランスミッション	
操作方式	4速フロアシフト　（　）内はTE系車	5速フロアシフト	2速フロアシフト	3速フロアシフト
減速比　第1速	3.684 (3.587)	3.587	1.820	2.450
第2速	2.050 (2.022)	2.222	1.000	1.450
第3速	1.383 (1.384)	1.384		1.000
第4速	1.000	1.000		
第5速		0.861		
後退	4.316 (3.484)	3.484	1.820	2.222
〔ディファレンシャル〕減速比	4.300 (4.100)	4.556 (4.300)	4.300 (4.100)	（　）内はTE系車

タイヤサイズ

車種	Standard 1200Deluxe	1200, 1400, 1600 Hi-Deluxe
前 後	6.00−12−4PR または 6.15−13−4PR 155SR13	6.15−13−4PR または 155SR13
車種	1400, 1600Deluxe	1200, 1600 1400SL, GSL
前 後	6.15−13−4PR	Z78−13−4PR または 155SR13

整備基準値

〈各部調整値〉

ファン・ベルトのたわみ……………………………8～12mm

（ベルトの中央部を10kgで押して）

スパーク・プラグ……………日本電装　W16EP

NGK　BP5ES－L

スパーク・プラグ（間隙）……………………………0.7～0.8mm

ディストリビューター・ポイント・ギャップ……0.4～0.5mm

アイドル回転数

エンジン型式	アイドル回転数（rpm）	
	マニュアル・トランスミッション車	オートマチック・トランスミッション車
3K－H	750	850（Nレンジ）
3K－B(R)	850	――
T, T－B(R) 2T, 2T－B(R)	800	950（Nレンジ）

弁すき間
（温間　単位mm）

	1200cc	1400, 1600cc
吸気弁	0.20	←
排気弁	0.30	0.33

ブレーキ・ペダル踏み残り代 1200cc車…………73mm以上

1400, 1600cc車…85mm以上

クラッチ・ペダルの遊び　1200cc車………………20～35mm

1400, 1600cc車……25～45mm

ハンドルの遊び……………………………………0～30mm

タイヤ残り溝深さ…………………………………1.6mm

〈各部容量〉

エンジン（エンジン・オイル）　1200cc車……3.5ℓ

1400, 1600cc車………4.4ℓ

トランスミッション（ギヤ・オイル）

1200cc車, 4速………1.7ℓ

1200cc車, 4速を除く……1.55ℓ

オートマチック・トランスミッション（フルード）

2速オートマチック…………4.7ℓ

3速オートマチック…………6.3ℓ

ディファレンシャル（ハイポイド・ギヤ・オイル）

………1.0ℓ

ステアリング・ギヤ・ボックス（ギヤ・オイル）……0.24ℓ

冷却水　　1200cc車……………………………6.5ℓ

1400, 1600cc車……………………………7.8ℓ

フューエル・タンク………………………………50ℓ

知っておきたいこと

法令の知識

自動車をご使用のかたには，法律（道路運送車両法）により，いろいろなことが義務づけられています。つぎにあげたことがらは安全上，特に関連の深いことですからご注意ください。



● 自動車の構造，装置等が道路運送車両の保安基準に合ったものでなければ運転できない。

● ドライバーは1日1回出発前に運輸省令で定められた方法で自動車を点検しなければならない。（仕業点検）

● 自動車を運行する者は，6ヵ月ごとに運輸省令で定められた基準にしたがって自動車を点検し，不良個所を発見した場合は，整備しなければならない。また同時に，定期点検記録簿に記載し1年間保管しなければならない。（定期点検）

● 一般に乗用車は2年，貨物車は1年ごとに運輸大臣の行なう継続検査を受けなければならない。（車両検査）

● 自動車検査証の記載事項に変更があったときは，運輸大臣が発行する自動車検査証の記入を受けなければならない。（名儀変更・住所変更等）

トヨタ純正について

トヨタ純正部品とは

1．トヨタの新車に使われた部品とまったく同じ部品です。

2．トヨタのきびしい品質検査に合格した部品です。

3．トヨタの販売網をつうじて，いつでもどこでもすぐに間に合う部品です。

以上のようなトヨタ純正部品をお使いいただくことによって，常に車の性能を維持することができ，安心して運転していただけます。

これらの部品には，（マーク）のマークを付け，その品質を保証します。

トヨタ車には，もっとも適したトヨタ純正部品をお使いください。

部品ご入用の際は，トヨタ車取り扱い販売店または，（マーク）のマークの看板を掲げた店で必ずトヨタ純正部品とご指定ください。

キャッスル製品

車の性能を十分発揮させるためには，車に適した良質のオイル・フルード・グリース，不凍液を使用することが大切です。

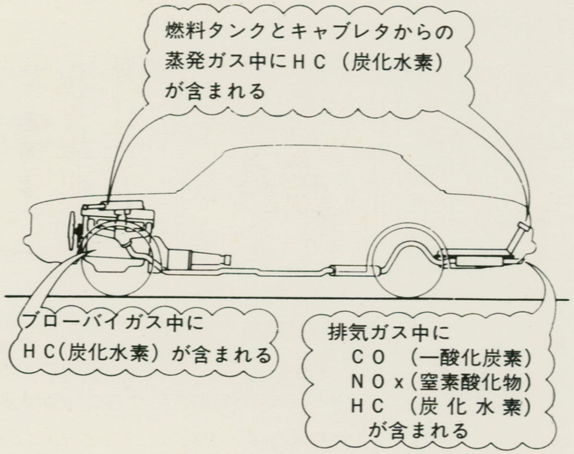
整備手帳に示されているオイルなどの使用個所には，キャッスル製品をご使用ください。

キャッスル製品は，トヨタ自動車が，長年の研究の結果，市場に送り出したもので自信をもっておすすめできる製品です。



排出ガス公害防止装置について

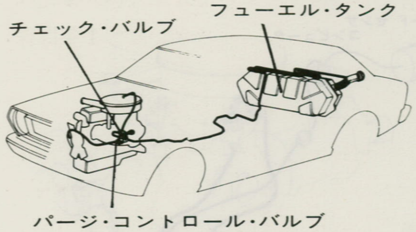
自動車の排出ガス中の汚染物質の種類と排出個所は下図の通りです。トヨタ・カローラではキャブレター，イグニッション・コイル等の改良のほかに，次の様な各装置を取りつけ公害防止に万全を期しております。



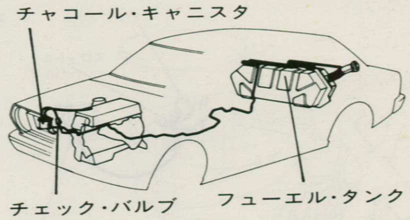
1．燃料蒸発ガス排出抑止装置

フューエル・タンクから蒸発するＨＣをエンジンの燃焼室に導いて燃焼させる装置です。

1200cc車



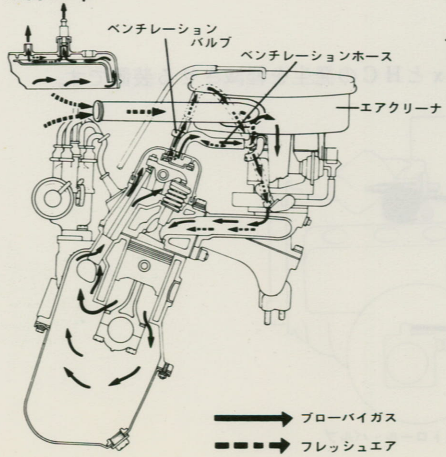
1400，1600cc車



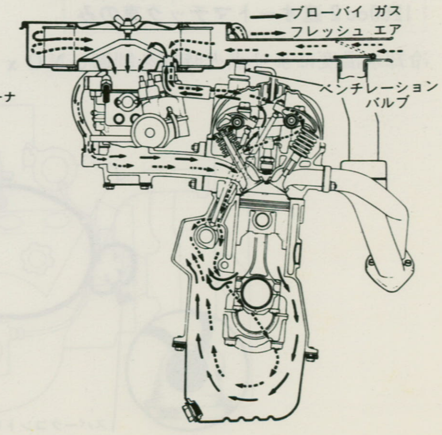
2．ブローバイ・ガス還元装置

クランク・ケース内で発生したブローバイ・ガスをエンジンの燃焼室に導いて燃焼させ，ブローバイ・ガスに含まれるＨＣの発散を防止しています。

1200cc車



1400，1600cc車

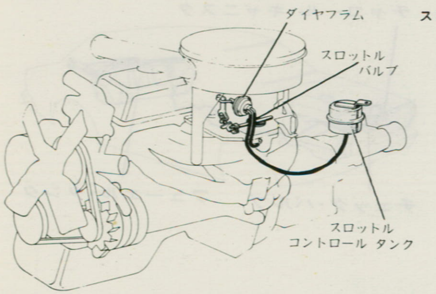


3．スロットル・ポジショナ

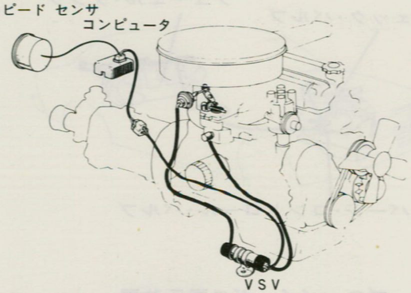
除くオートマチック車

走行中減速時には混合気が不足し，一部燃料が燃えずに排出されるので減速時にスロットル・バルブを少し開いて混合気の流入量を若干多くし，燃料を完全燃焼させ，HCの大気放出量を軽減させる装置です。

1200cc車



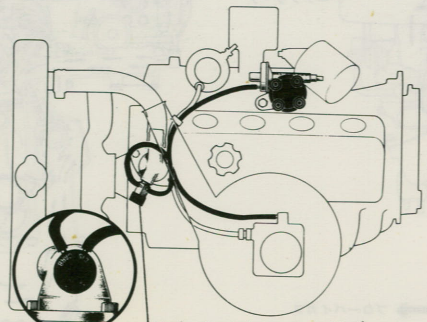
1400，1600cc車



4．点火時期制御装置（スパークコントロール・バルブ）

1200cc 2速オートマチック車のみ

冷却水温度により点火時期を制御しNOxとHCの発生を軽減させる装置です。



寒冷地での取り扱い

この項目での寒冷地とは，北海道全域および東北・北陸の積雪地帯および，その他の地域を含めた山岳地，スキー場などの局地的な厳寒地区，多雪地区を対象としておりますが，その他の地域においても，冬季の取扱いの参考としてください。

寒冷地の運転について

■厳寒時のエンジン始動要領

★始動時のアクセル・ペダルとチョークの操作はチョークの項を参照ください。

★エンジンの回転が完全に持続するまで，スターターを回してください。

★スターターを回し続けて約15秒経過しても始動できない場合は，いったんエンジン・スイッチをOFFにし，しばらく時間をおいてバッテリーの能力の回復をまって，再始動してください。

★始動しない場合にはガソリンの吸い込みすぎのことがあります。
アクセル・ペダルを一ぱい踏んだままスターターを回してください。

★エンジン始動を容易にするためクラッチ・ペダルを踏んでエンジンの負荷を減らしてください。

■エンジン・ウォーム・アップを行ないましょう。

厳寒時，エンジンが冷えきった状態で車を走行させることは，エンジン各部に大きな負担をかけることになります。エンジンのウォーム・アップは燃費の節約のみでなく，エンジンを長持ちさせるのに効果的です。



■エンジンの冷えすぎを防ぐには

気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけるとエンジンを適温に保つのに効果があります。

■ドア，ドア・キーの凍結時の処置

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドアまわりのゴムがはがれたり，亀裂する恐れがありますので湯をかけて氷を溶かしてください。なお後で水分を十分ふきとっておきましょう。

■走行時の注意

★乗車時，靴に付着した雪をよく落としてください。アクセル・ペダル凍結防止に必要です。

★雪道走行時，フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次第にたい積して，ハンドルのきれが悪くなることがかります。時々異常のないことを確認してください。



★ドライブ・テクニックについては，“上手な運転のしかた”を参考に，無理をしない運転を心がけてください。

■駐車時の注意

★屋外に長時間駐車する場合はできるだけ車を風下に向けて置きましょう。



寒冷時の車の保守

■走行前の点検

寒冷時には，次の項目を仕業点検の時に実施してください。

★車の下をのぞいて，ステアリングのリンクやブレーキ・ホースに付着した氷塊をとり除いてください。

★エンジン始動時にアクセル・ペダルの作動が円滑かどうか確認してください。

★フロント・ウインドゥの氷雪を除去する際にはワイパー・ブレードがガラスに凍結していないか確認してください。



■洗車についての注意

★凍結防止剤をまいた道路を走行した場合は，早めに下まわりを洗ってください。放置すると付着した塩分のため下まわりが腐蝕しやすくなります。

★洗車後の水切は十分に行ってください。特にドアおよびラッケージ・ドアまわりに注意して凍結を防止してください。



■冬季の前後の点検，整備

厳しい寒さと氷雪に備えて車も冬仕度が欠かせません。冬を迎える前にトヨタのサービス工場で冬季シーズン・イン点検を実施ください。

★冬季を迎えて必要な点検整備の主要項目

- バッテリー，充電系統の点検
- 始動系統，点火系統の点検
- 冷却系統の点検（不凍液，ＬＬＣの濃度等）
- エア・クリーナ吸気コントロール・レバーの切替
- 冬季用エンジン・オイルの切替
- キャブレタ・チョークの作動点検，調整
- タイヤ・チェーンの準備
- 冬季用タイヤ，冬季用ワイパ・ブレードの装着
- ウインドゥ・ウォッシャ液を濃度50%のものと交換
- 下まわりの点検など

★冬が終ったら，冬のために装備した部品を元に戻しましょう。

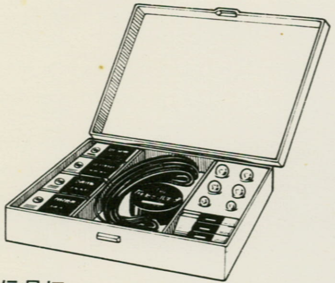
特に冬季用ワイパー・ブレードは夏季に使用しないでください。

なお，冬季の荒れた路面を走行した下まわりも点検しましょう。

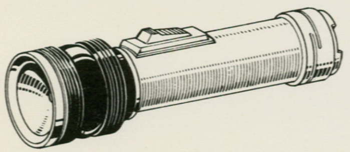
トヨタ純正アクセサリー製品

安全でより快適な運転をお楽しみいただくため，いろいろなアクセサリーを販売店に用意してあります。
ご注文ください。

●ドライバーキット
車の応急処理に



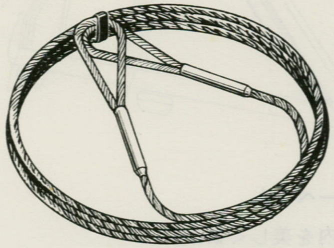
●信号灯
夜間の事故，緊急事故にそなえて



●道路地図
ドライブのガイドに



●エマロープ
けん引事態にそなえて

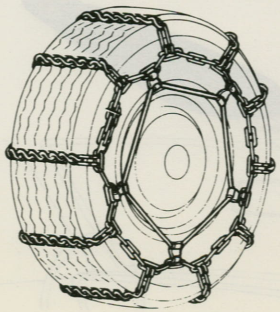


電気を使用するアクセサリーの配線の注意

★既設の配線(ワイヤ・ハーネス)に容量以上の負担がかかっていないこと。
★ヒューズを通っていること。
★接続は確実であること。
★接続部分は必ずハンダ付けをし，絶縁テープで十分おおわれていること。
★配線が車体と触れあわないように，固定すること。

あなたの車をより快適なものに

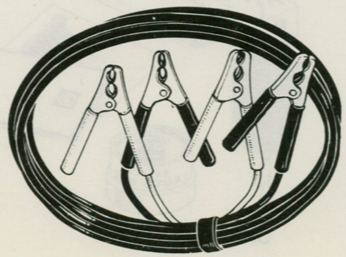
●タイヤチェーン
雪道の安全運転に



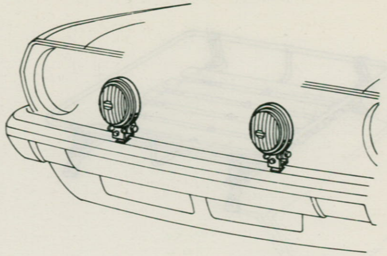
●ウインドウォッシャーフリュード
カーの目薬，視界もスッキリ



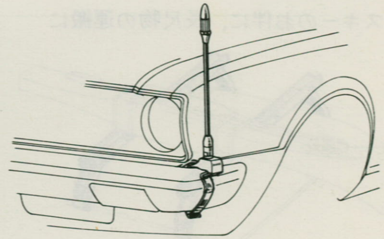
●ブースターケーブル
バッテリー上りにそなえて



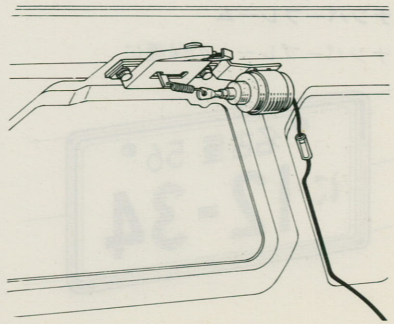
●フォグランプ
霧や雨降り時の安全運転に



●フェンダーランプ
狭い道，夜間ドライブに

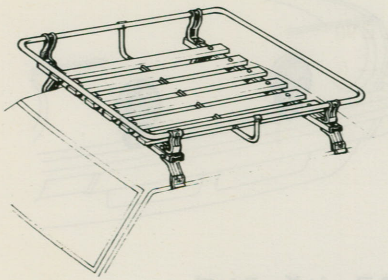


●トランクオープナー
車内からトランクの開扉を



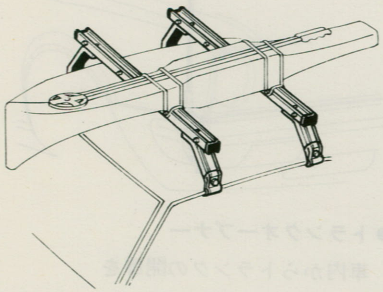
●ルーフラック

レジャーに，商用に



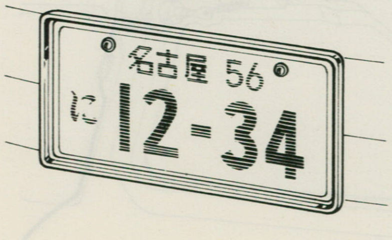
●スキーラック

スキーのお伴に，長尺物の運搬に



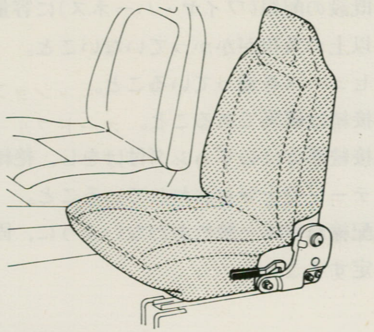
●ナンバーフレーム

ナンバープレートの保護に



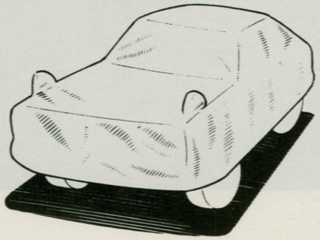
●シートカバー

車内の演出に



●カーカバー

露天駐車に



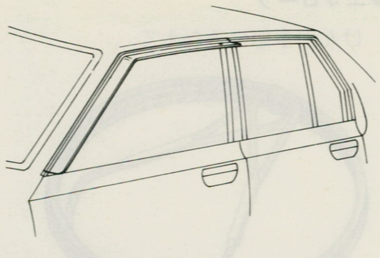
●愛車キット

愛車のお手入れに



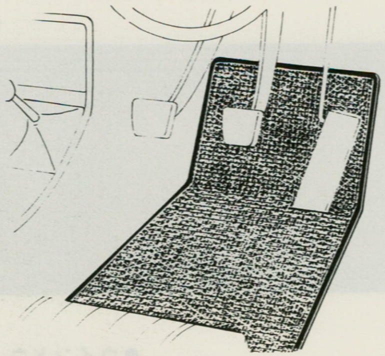
●サイドバイザー

日よけに，雨よけに



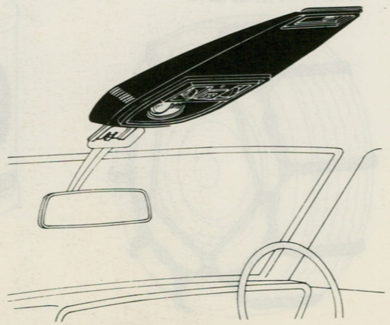
●カーペット

車内を美しく豪華に



●オーバーヘッドコンソール

インテリヤをよりスポーティーに



トヨタ純正キヤッスル製品

トヨタ車のためにつくられた，トヨタ純正キヤッスル製品をご使用ください。

●エンジン・オイル

トヨタ純正キヤッスル・モーター・オイル・スーパー・デラックス

（API基準SE）

〃　〃　・ゴールデン・スペシャル

（API基準SD）

〃　〃　・スペシャル（API基準SD）

●トランスミッション・オイル

トヨタ純正キヤッスル・ギヤ・オイル　SAE90

●ディファレンシャル・ギヤ・オイル

トヨタ純正キヤッスル・ハイポイド・ギヤ・オイルS　SAE90

●ステアリング・ギヤ・オイル

トヨタ純正キヤッスル・ギヤ・オイル　SAE90

●オートマチック・トランスミッション・フルード

トヨタ純正キヤッスル・オートフルード・スペシャル

●ホイール・ベアリング・グリース

トヨタ純正キヤッスルMP・グリース

●不凍液

トヨタ純正キヤッスル・ロングライフ・クーラント

●ブレーキ・フルード

トヨタ純正ブレーキ・フルード・グリコール2400F



● 印刷＝昭和49年11月４日
● 発行＝昭和49年11月９日

非売品

● 編集　＝　トヨタ自動車販売株式会社・サービス部
愛知県西春日井郡春日村　〒452

● 発行　＝　トヨタ自動車販売株式会社・販売拡張部
東京都千代田区九段南2-3-18　〒102

TOYOTA SAFETY 安全はトヨタの願い

愛される車をめざして

TOYOTA

トヨタ自動車工業株式会社　トヨタ自動車販売株式会社

1

28416－4 Ⓝ